

# コラッツ予想：パリティベクトル解析から導かれる命題

## Collatz Conjecture: Propositions derived from Parity Vector Analysis

樋川 和伸 中西 一夫

金沢学院大学名誉教授

### 抄録

本稿は、コラッツ問題に関する Riho Terras[1], Eric Roosendaal [2,3], および David C. Kay [6] の研究成果を基盤にして、「 $N > 1$  のすべての正の整数は有限のストッピングタイムをもつ」という命題に取り組み、パリティベクトルを利用して命題の証明に役立つ知見を獲得するための調査・研究である。まず、有限の長さのパリティベクトルを Terras の収束条件に基づき 3 分類し、独自の方法により「パリティベクトルの長さ」別と「パリティベクトル中の 1 の個数」別の両方のパリティベクトルの生成とそれらの個数計算を行い、そしてその結果の考察を行う。また、パリティベクトルの振る舞い、収束状況が視覚的に把握できるツールとして開発したパリティベクトル俯瞰図を提案し、すべての整数を分類する剩余類に対応するパリティベクトル集合や特徴あるパリティベクトルの収束状況を実測データに基づいて分析する。その結果、コラッツ予想が肯定的に成立する裏付けとなる仮説をまとめて列挙する。

本文中に表示されている個々の図表は、ハイパーリンクをクリックすることにより閲覧できるとともに Appendix 1 にまとめて掲載した。また、上記のパリティベクトル俯瞰図やデータ分析のコンピュータ実演などのデモンストレーションは、該当するハイパーリンクをクリックすることにより確認できる。その実演プログラムのソーステキストは、Appendix 2 に掲載のリストからダウンロードすることができる。

### Abstract

This paper is based on the research of Riho Terras, Eric Roosendaal, and David C. Kay on the Collatz problem. It addresses the proposition that "every positive integer  $N > 1$  has a finite stopping time" and uses Parity Vectors (PVs) to provide insight that will be useful in proving this proposition. First, we classify finite-length PVs into three categories based on Terras's convergence condition. Then, we generate and count PVs using our own method based on "the length of PV" and "the number of 1s in PV." Finally, we consider the results. We also propose a bird's-eye view of parity vectors as a tool to visually understand their behavior and convergence status. We analyze the set of parity vectors corresponding to the cosets that classify all integers, as well as the convergence status of characteristic parity vectors, based on actual measurement data. As a result, we list hypotheses that support the validity of the affirmative Collatz conjecture. The figures and tables in the main text can be viewed by clicking the corresponding hyperlinks and are summarized in Appendix 1. Additionally, demonstrations such as the parity vector bird's-eye view and the computerized data analysis can be accessed via the corresponding hyperlinks. The source text of the demonstration programs can be downloaded from the list in Appendix 2.

**Keywords**— コラッツ予想 (Collatz Conjecture), ストッピングタイム (Stopping Time), トータルストッピングタイム (Total Stopping Time), グライド (Glide), グライドレコード (Glide Record), パリティベクトル (Parity Vector), ジェネレータ (generator), v 収束 (v Convergence time), 収束条件式 (onvergence Condition Formula), ディオファンス方程式 (Diophantine equation), PV 俯瞰図 (Bird's-eye view of the parity vector)

## 1 はじめに

この章では、議論の前提知識として、過去の関連する研究論文を引用して用語の定義や記法および補題を記載する。そして、その知見に加えて第 2 章以降で我々の研究成果を詳しく説明する。

## 1.1 コラッツ予想

コラッツ予想 (Collatz Conjecture) とは、「任意の正の整数  $N$  を考え、 $N$  が奇数ならば 3 倍して 1 を足し、 $N$  が偶数ならば 2 で割る」という操作を繰り返して行うと 1 に到着するという予想である。ただし、 $N$  が奇数のときは 3 倍して 1 を足すと必ず偶数になるのでさらに 2 で割るとしても予想の意味は変わらない。

任意の正の整数  $N$  に対して、 $S_i$  の数列を次のように定義する。

$S_0 = N$  とし、すべての  $i$  に対して

$$S_{i+1} = \begin{cases} S_i/2 & : S_i \text{ が偶数の時} \\ (3 \cdot S_i + 1)/2 & : S_i \text{ が奇数の時} \end{cases} \quad (1-1)$$

この  $S_i$  の数列、 $S(N) = (S_0, S_1, S_2, \dots, S_{i-1}, S_i, \dots)$  を  $N$  のコラッツ数列と呼ぶ。

## 1.2 ストッピングタイム および トータルストッピングタイム

任意の正の整数  $N (=S_0)$  のコラッツ数列に関して、 $S_k < S_0$  となる最小の整数  $k$  が存在するとき、 $k$  を  $N$  のストッピングタイム (Stopping Time: 停止回数) またはグライド (Glide) といい、そして  $S_q = 1$  となる  $q$  が存在するとき、 $q$  を  $N$  のトータルストッピングタイム (Total Stopping Time: 総停止回数) またはディレイ (Delay) という。

$N$  のストッピングタイムを記号で  $\sigma(N)$ 、 $N$  のトータルストッピングタイムを  $\sigma_\infty(N)$  で表すことがある。

一般に、すべての正の整数  $N$  は、 $2^k m + r (0 \leq m, 0 \leq r < 2^k)$  の形で表すことができる。

これは、整数  $N$  は  $2^k$  を法とし剩余を  $r$  とする  $2^k$  個の剩余類に分類することを意味する。以降、説明の便宜上、 $2^k$  を法とし剩余を  $r$  とする剩余類を  $N_r = \{2^k m + r\}$  と記述する。

### (剩余類のストッピングタイム)

ここで、 $k=5$  としたとき、すべての整数は、 $2^5$  を法とする 32 個の剩余類  $N_r = \{2^5 m + r\} (0 \leq r < 2^5)$  に分類できる。32 個の  $N_r$  に対してストッピングタイムを調べると、Table 1-1 のようになる。

Table 1-1 剩余類  $N_r = \{2^5 m + r\}$  要素のストッピングタイム or (Appendix 1)

たとえば、 $r=11$  の場合は、

$S_0 = 2^5 m + 11, S_1 = 3 \cdot 2^4 m + 17, S_2 = 3^2 \cdot 2^3 m + 26, S_3 = 3^2 \cdot 2^2 m + 13, S_4 = 3^3 \cdot 2 m + 20, S_5 = 3^3 m + 10$  となり、 $S_0 > S_5$  であるから  $\sigma(2^5 m + 11) = 5$  となる。

すなわち、 $r=7, 15, 27, 31$  以外の  $N_r$  に属するすべての整数のストッピングタイムはすべて 5 以下の値となり、 $r=7, 15, 27, 31$  については、ストッピングタイムが存在するならば 6 以上の有限な値となる。

### 【補題 1】 ストッピングタイムの最大値はない。

(証明) なぜならば、最大値が存在したとしてそれを  $k$  とする。 $S_0 = 2^k - 1$  という整数を考えると、 $S_1 = 3 \cdot 2^{k-1} - 1, S_2 = 3^2 \cdot 2^{k-2} - 1, \dots, S_k = 3^k - 1$  となり、 $S_0 < S_i (1 \leq i \leq k)$  であるからストッピングタイムは  $k$  より大きい値にならなければならない。これは、最大値が  $k$  としたことに矛盾する。□ (証明終記号)

### 【補題 2】 指定したストッピングタイムをもつ整数を求めることができる。なお、存在しないストッピングタイムもある。

(証明) 指定したストッピングタイムを持つ整数を 1 つ求める場合は、後述するパリティベクトル俯瞰図を参照して、例えば未収束領域の上限と下限のパリティベクトルを利用して求めることができる ([データ分析 3, 4] 参照)。該当する複数個の整数を求めるには、文献 [4] の定理 1 に示されている方法によって可能である。□

【補題 3】 このストッピングタイムを用いた命題「 $N > 1$  なるすべての整数  $N$  は有限のストッピングタイムを持つ」ことが成立すれば、コラッツ予想「すべての正の整数は 1 に到達する (トータルストッピングタイムをもつ)」も成立することが下記のように示される。

### (証明) 整数 $N$ の帰納法により説明する

まず、2 のコラッツ数列は  $\{2, 1\}$  となり 1 に到達する。3 は  $\{3, 5, 8, 4, 2, 1\}$ 、4 は  $\{4, 2, 1\}$ 、5 は

$\{5, 8, 4, 2, 1\}, \dots$  となり、ある実測できる整数まではすべてストッピングタイムを持ち、かつ 1 に到達する（トータルストッピングタイムをもつ）ことがわかる、つまり命題は真である。

次に、N 以下のすべての整数がストッピングタイムを持ち、1 に到達すると仮定する。N+1 を考えると、命題の前提条件により N+1 はあるストッピングタイム  $k$  を持つ。ということは、N+1 のコラツツ数列の  $(k+1)$  番目の整数は、N+1 より小さい（N 以下の）整数である。そうすると帰納法の仮定より、N 以下のすべての整数は 1 に到達する（トータルストッピングタイムをもつ）ので、N+1 は 1 に到達する（トータルストッピングタイムをもつ）ことになる。したがって、命題は成り立つ。□

なお、Riho Terras（文献 [1]）は、「 $N > 1$  のほとんどすべての整数  $N$  は、有限のストッピングタイムをもつ」ことを証明した（文献 [2] Terras の定理参照）。

[デモンストレーション 1] 整数 N のコラツツ数列とストッピングタイムは、Program 1 をクリックして確認できる。（Appendix 2）

### 1.3 パリティベクトルとその収束性

任意の正の整数 N のコラツツ数列に対応する N のパリティベクトル (Parity Vector)  $v(N)$  を  $v_i(N) = S_{i-1} \bmod 2$  ( $1 \leq i$ ) と定義する。k 個の要素の場合は  $v(N) = (v_1, v_2, v_3, \dots, v_k)$  あるいは  $v(N) = v_1 v_2 v_3 \dots v_k$  と記述する。

このとき、要素数 k はこのパリティベクトル  $v(N)$  の長さという。そして、このパリティベクトル  $v(N)$  を生成した整数  $N (= S_0)$  のことをジェネレータ (Generator: 生成元数)、 $S_{k-1}$  を  $v(N)$  のプレリザルタント (Pre-resultant: 結果前数)、 $S_k$  を  $v(N)$  のリザルタント (Resultant: 結果数 (文献 [6]))。

(例)  $N = 17$  の場合は、最初の 6 個の要素は  $S_0 = 17, S_1 = 26, S_2 = 13, S_3 = 20, S_4 = 10, S_5 = 5$  であるから  $v_1 = 1, v_2 = 0, v_3 = 1, v_4 = 0, v_5 = 0, v_6 = 1$  と表せるので  $v(17) = (1, 0, 1, 0, 0, 1)$  または  $v(17) = 101001$  と書く。17 はこのパリティベクトル  $V(17)$  のジェネレータ、5 はプレリザルタント、つぎの  $S_6 = 8$  はリザルタントである。

パリティベクトルは、N に対する (1-1) 式のコラツツ操作の反復動作を完全に記述している。下記に、パリティベクトルに関するいくつかの補題を紹介する（文献 [2] [6]）。

【補題 4】  $N$  を  $2^k m + r$  ( $0 \leq r < 2^k$ ) の形の正の整数とするとパリティベクトルの最初の k 個の要素は、r にのみ依存する。

（証明は、文献 [2] 補題 1 参照）

【補題 5】  $w_i$  ( $1 \leq i \leq k$ ) が長さ k のパリティベクトル  $(w_1, w_2, \dots, w_k)$  であるとすると、

$v_i(N) = w_i$  ( $1 \leq i \leq k$ ) となる整数 N が存在する。

（証明は、文献 [2] 補題 2 参照）

【補題 6】  $S_0 = N$  を正の整数とし、 $v_i$  をそのパリティベクトルとする。 $d(a, b) = \sum_i v_i (a \leq i \leq b)$  と記載することにする。特に、 $d(k)$  を  $d(1, k)$  の省略形とする。すなわち、 $d(k)$  は長さ k のパリティベクトル中の”1”の個数である。そうすると、 $S_k \approx T_k = S_0 \cdot 3^{d(k)} 2^{-k}$ 、対数形式で表示すると

$\log(S_k) \approx \log(T_k) = \log(S_0) + d(k) \cdot \log(3) - k \cdot \log(2)$  となり、十分に大きな  $S_k$  に対して、

$\lim(S_k - T_k)/S_k = 0$  となる。

（証明は、文献 [2] 補題 4 参照）

(例)  $N = S_0 = 2^{50} - 1 = 1125899906842623$  とすると  $S_{50} = 3^{50} - 1 = 717897987691852588770248$  および  $T_{50} = S_0 \cdot 3^{50} \cdot 2^{-50} \approx 717897987691851951148749$  となる。この 2 つの差は、 $10^{-15} \cdot S_{50}$  より小さくなり、 $S_{50}$  と  $T_{50}$  は近似している。

補題 6 は、 $v(N)$  から  $S_k$  を推定することができるので、 $v(N)$  を使って N の収束性 (Convergence) を考えることができ。N の Convergence とは、N が有限のストッピングタイムをもつか否かの状態を意味するものとする。

いま、 $v_i$  ( $1 \leq i \leq k$ ) を長さ k のパリティベクトルとし、任意の  $1 \leq j \leq k$  に対して  $c(j)$  を  $c(j) = d(j) \cdot \log(3) - j \cdot \log(2)$  ( $d(j)$  は補題 6 で定義した式) と設定する。

この時、 $1 \leq j \leq k$  のある  $j$  に対して  $c(j) < 0$  (すなわち、 $T_j < S_0$ ) ならば、v 収束 (v Convergent) と呼び、 $c(j) < 0$  となる最小の値  $j$  を v の収束回数 (Convergence time)、あるいは一般的にはそのようなパリティベクトルを持つ任意の N の収束回数と呼ぶ。

もし、そのような  $j$  の値が存在しないならば v 発散 (v Divergent) または v 未収束 (v Un convergent) とよぶ。

ここで、 $c(j) = d(j) \cdot \log(3) - j \cdot \log(2) < 0$  すなわち不等式

$$j > d(j) \cdot \log(3) / \log(2) \quad (1-2)$$

を収束条件式 (*Convergence Condition Formula*) とよぶ。

以上のことより、長さが  $k$  のパリティベクトル  $v_j (1 \leq j \leq k)$  の収束性はつきの 3 つに分類できる。

- ①  $k > \min\{\exists j \mid j > d(j) \cdot \log(3) / \log(2)\}$  のとき：既収束 (*Already converged*)、収束回数 (convergence time=j) ( $j < k$ )
- ②  $k = \min\{\exists j \mid j > d(j) \cdot \log(3) / \log(2)\}$  のとき：確定収束 (*Just converged*)、収束回数 (convergence time=k)
- ③ すべての  $j$  に対して  $j < d(j) \cdot \log(3) / \log(2)$  のとき：未収束 (*Un converged*)

【記法説明】以降、文章の短縮化のため本文中の単語を下記のように簡略化することがある。

- (1) パリティベクトル  $\rightarrow \mathbf{PV}$
- (2) 既収束  $\mathbf{PV} \rightarrow \mathbf{A-PV}$ 、確定収束  $\mathbf{PV} \rightarrow \mathbf{J-PV}$ 、未収束  $\mathbf{PV} \rightarrow \mathbf{U-PV}$

(1-2) 式より、 $\mathbf{PV}$  の長さを  $k$  としたときの  $d(j)$  と  $v$  収束回数  $j$  の関係は Table 1-2 のようになる。

ただし、 $j$  は  $j \leq k$  の値で収束条件式を満たす最小値とする。この表における収束回数の値は、文献 [1] の Table 3 の「Values of the stopping time  $\tau$ 」と合致する。

---

Table 1-2  $\mathbf{PV}$  の長さ  $k$ 、1 の個数  $d(j)$  および  $v$  収束回数の間の関係 or (Appendix 1)

---

ここで、整数  $N$  のストッピングタイム (グライド) と、 $v(N)$  の収束回数 (convergence time) の値は、Riho Terras[1] および Eric Roosendaal[2] の考察により同一視できるものと理解し、以降、ストッピングタイム、グライド、収束回数を同じものとして使用することがある。

【補題 7】  $n$  は 1 の数が  $r$  個の長さ  $k$  のパリティベクトル  $V$  の最小のジェネレータと仮定する。このとき長さ  $k+1$  のパリティベクトル  $V \oplus x$  ( $x$  は 0 か 1) のジェネレータ  $n'$  を求める。ただし、 $V \oplus x$  は、パリティベクトル  $V$  の後ろに  $x$  (0 か 1) を付け加える意味とする。

もし、 $V$  のリザルタントと  $x$  とを比較して

一致する、すなわち、 $S_k \pmod{2} = x$  ならば  $n' = n$

一致しない、すなわち、 $S_k \pmod{2} \neq x$  ならば  $n' = n + 2^k$

となる。

さらに、 $m$  が  $V$  のリザルタント) とすると、 $m' = m + 3^r$  は、 $V \oplus x$  のプレリザルタントとなる。(2.2 節で参照する。証明は、文献 [6] 定理 A 参照)

## 1.4 ディオファンティス方程式 (Diophantine Equation)

所与のパリティベクトルのジェネレータの存在についてはつきの補題 8 からわかる。

【補題 8】長さ  $k$  のパリティベクトルは、 $2^k$  より小さいか等しい正の整数により一意に生成される。そして、長さ  $k$  の複数のパリティベクトルは、それらの最小のジェネレータと一対一に対応する。

(補題 8 の証明は、文献 [6] 定理 B 参照)

(パリティベクトルのジェネレータを求める)

ある整数  $n > 1$  の長さ  $k$  のパリティベクトルを  $v(n) = (v_1, v_2, v_3, \dots, v_k)$  とし  $v(n)$  の要素  $v_i$  の 1 の個数を  $d$ 、 $n$  に対する  $v(n)$  の操作後のリザルタントを  $m$  とすると次式が成立する。

(文献 [5] の定理 4、文献 [6] の 3 節と 4 節参照)

$$m = (3^d / 2^k)n + R \quad (1-3)$$

ただし、 $R$  はパリティベクトル  $v(n)$  の固有の値とみなし、次式で計算する。([6])

$$R = \sum_{i=1}^k v_i 2^{i-1} 3^{\delta(i)} / 2^k \quad \text{ここで} \quad \delta(i) = d - \sum_{j=1}^i v_j$$

(1-3) 式を整理し、 $q = 2^k R$  と置くと

$$2^k m - 3^d n = q \quad (1-4)$$

となる。 (1-4) 式は、mとnを変数とし、係数の $2^k$ と $3^d$ は互いに素であるから一次のディオファントス方程式 (Diophantine equation) となり、無限個の(m, n)解が存在する。この無限個の解のnはv(n)のジェネレータであり、補題8より $1 \leq n \leq 2^k$ に対応する値 $n_0$ は長さがkのパリティベクトルの最小のジェネレータであり一意に決まる。 $n_0$ に伴いリザルタントの解 $m_0$ も一意に求まる。m, nの一般解は、 $n = n_0 + 2^k t, m = m_0 + 3^d t$ で表される。tは、媒介変数で0以上の整数である。

【補題9】長さkの未収束のパリティベクトルの1の数がd個のとき、このPVのジェネレータnとリザルタントmは、(1-4)式のディオファントス方程式を解いて求めることができる。

(証明) 上記の説明のとおりである。□

以下にいくつか例をあげる。

(例)

(1) 1111000

$$q = 2^0 \times 3^3 + 2^1 \times 3^2 + 2^2 \times 3^1 + 2^3 \times 3^0 = 65$$

方程式  $2^7 m - 3^4 n = 65$ 。解は n=15, m=10

一般解  $n = 15 + 2^7 t, m = 10 + 3^4 t$

(2) 1110100

$$q = 2^0 \times 3^3 + 2 \times 3^2 + 2^2 \times 3^1 + 2^4 \times 3^0 = 73$$

方程式  $2^7 m - 3^4 n = 73$ 。解は n=7, m=5

一般解  $n = 7 + 2^7 t, m = 5 + 3^4 t$

(3) 110111001

$$q = 2^0 \times 3^5 + 2^1 \times 3^4 + 2^3 \times 3^3 + 2^4 \times 3^2 + 2^5 \times 3^1 + 2^8 \times 3^0 = 1117$$

方程式  $2^9 m - 3^6 n = 1117$ 。解は n=219, m=314

一般解  $n = 219 + 2^9 t, m = 314 + 3^6 t$

補題7～補題9により、長さがkの任意のPVのジェネレータを求める方法は、補題7を利用して、PVの先頭の1桁目から逐次計算し求めていく方法と、補題9のディオファントス方程式を解いて求める方法がある。

## 1.5 パリティベクトルの分類 (J-conv., A-conv., U-conv.)

PVの先頭の数字が0の場合は、そのPVに対応するジェネレータは偶数であるのでストッピングタイムは1、したがってv収束回数は1である。以下、先頭の数字が1のPVについて調べる。

前述の(1-2)式のPVの収束条件式をもとにして、長さ1から6までのPVの収束状況を調べるとTable 1-3のようになる。

収束条件式の $\log_3/\log_2$ は1.58として計算している。

Table 1-3の「太字の数字」は、収束条件式を充足しているもので、「収束状況 (convergence status)」は、1.3節で説明したPVの収束性の分類に基づいている。なお、「収束状況」のJustは確定収束PV、Alreadyは既収束PV、空白は未収束PVを意味する。

Table 1-3 収束条件式によるパリティベクトルの収束状況調査例 or (Appendix 1)

Table 1-4 「長さ」別の確定収束 (J-converged)PV と未収束 (Un converged)PV 例 or (Appendix 1)

## 2 パリティベクトルの生成と個数計算

すべてのパリティベクトルを形式的に分類すると、(1) 1から無限大までの長さ別に分類する、(2) パリティベクトルに含まれる1の個数別に分類する、ことができる。以降、(1)、(2)ごとにJ-PVとU-PVの生成方法と個数計算について説明する。

## 2.1 長さ別パリティベクトルの生成と個数計算

Table 1-3 と Table 1-4 でパリティベクトルの「長さ」別の J-PV と U-PV を調べた手続きに基づき、長さ  $k$  の PV から長さ  $k+1$  の PV の生成する方法とそれらの個数計算の方法がわかる。

### 2.1.1 長さ別確定収束 PV と未収束 PV の生成方法

長さが  $k$  の J-PV や A-PV に 0 または 1 を加えると、 $k+1$  の長さの A-PV になることは明らかである。したがって、 $k+1$  の長さの J-PV または U-PV を生成するには、長さが  $k$  の U-PV に 0 または 1 を付け加えればよいことがわかる。

**【アルゴリズム1】** 長さが  $k$  の未収束 PV から長さが  $k+1$  個の未収束 PV と確定収束 PV を生成するアルゴリズム

(説明)

長さ  $k$  の PV 中の 1 の個数を  $d(k)$  とする U-PV を  $V$  とする。 $V$  に  $x$  (1 または 0) を付け加えることを  $V \oplus x$  と書くことにする。長さが  $k$ 、1 の個数が  $d(k)$  の U-PV から、長さが  $k+1$  個の U-PV と J-PV を求めるアルゴリズムは次のとおりである。長さが  $k$  の U-PV が複数個存在するときは、それぞれについて実施する。

手続き 1:  $V \oplus 1$  は、長さ  $k+1$  の U-PV である。

手続き 2:  $V \oplus 0$  は、PV の収束条件式 (1-2) が成立するか否かによって下記の 2 通りに分かれる。

$(k+1) > d(k+1) \cdot \log(3) / \log(2)$  ならば 長さ  $k+1$  の J-PV となり

それ以外は 長さ  $k+1$  の U-PV となる。

(例)

$\log(3) / \log(2)$  は 1.58 として計算する。(1) 長さが 5 の U-PV の 1 つを  $V=11011$  とすると

手続き 1:  $V \oplus 1=110111$  は長さが 6 の U-PV

手続き 2:  $V \oplus 0=110110$  は  $6 > 4 \times 1.58$  ではないので、長さが 6 の U-PV である

したがって、長さ 5 の U-PV (11011) から長さ 6 の 2 つの U-PV (110111, 110110) が生成される。

(2) 長さが 6 の U-PV の 1 つを  $V=110110$  とすると

手続き 1:  $V \oplus 1=1101101$  は長さが 7 の U-PV となり

手続き 2:  $V \oplus 0=1101100$  は  $7 > 4 \times 1.58$  であるから、長さが 7 の J-PV である

したがって、長さ 6 の U-PV (110110) から長さ 7 の 1 つの U-PV (1101101) と 1 つの J-PV (1101100) が生成される。

なお、生成した未収束 PV と確定収束 PV のジェネレータは、1.4 節で説明したように PV の先頭の 1 桁目から逐次計算して求めていく方法と、ディオファンクション方程式を解いて求める方法がある。

上記のアルゴリズム 1 から、Table 2-1 の U-PV リスト、Table 2-2 の J-PV リストが生成されることがわかる。

---

Table 2-1 「長さ」別の未収束 PV リスト (一部抜粋) or (Appendix 1)

---

---

Table 2-2 「長さ」別の確定収束 PV リスト (一部抜粋) or (Appendix 1)

---

### 2.1.2 「長さ」別の J-converged PV と未収束 PV の個数計算

PV の長さごとの J-PV と U-PV の個数計算は、2.1.1 で説明したアルゴリズム 1 の中でカウントすることができるが、ここでは、個数計算用の漸化式を立式して計算することにする

#### (1) 長さ別 U-PV の個数計算

先頭が 0 の PV は J-PV あるいは A-PV であるので、先頭が 1 の PV を対象とする。長さ  $k$  の PV が U-PV となる条件は、(1-2) 式の収束条件式の不等号の向きを変えた式で与えられるので、 $k$ 、 $d$  に関するつきの関数  $\epsilon(k, d)$  を定義する。

$$\epsilon(k, d) = \begin{cases} 1 & : k < d \cdot \log(3) / \log(2) \text{ のとき} \\ 0 & : \text{その他のとき} \end{cases}$$

長さ  $k$ , 1 の数が  $d$  の U-PV の個数を  $W(k, d)$  とする。このとき、① 長さが  $k$  の U-PV に 1 を加えた場合の長さ  $k+1$ 、 $d+1$  の U-PV の個数  $W(k+1, d+1)$  と、② 0 を加えた場合の長さ  $k+1$ 、 $d$  の U-PV の個数  $W(k+1, d)$  はそれぞれ次の式で表される。

$$\begin{aligned} \textcircled{1} \quad W(k+1, d+1) &= \epsilon(k+1, d+1) \cdot W(k, d) \\ \textcircled{2} \quad W(k+1, d) &= \epsilon(k+1, d) \cdot W(k, d) \end{aligned}$$

上記の 2 式から、長さが  $k+1$  の U-PV の個数  $W(k+1, d)$  は、長さが  $k$  の U-PV の個数  $W(k, d)$  を用いて次の (2-1) 式の漸化式で求めることができる。

$$W(k+1, d) = \epsilon(k+1, d) \{W(k, d) + W(k, d-1)\}, \quad (2-1)$$

ここで、初期値は、 $W(1, 0) = 0$ ,  $W(1, 1) = 1$ , および  $W(k, d) = 0$  ( $d > k$ ).

以上より、長さが  $k+1$  の U-PV の個数  $W(k+1)$  は、(2-1) 式の総和で求められる。

$$W(k+1) = \sum_{d=a}^b W(k+1, d), \quad (2-2)$$

ただし、 $a = \lceil (k+1) \cdot \log(2) / \log(3) \rceil$  ( $\lceil y \rceil$  は天井関数で  $b$  は  $b = k+1$  である。

## (2) 長さ別 J-PV の個数計算

長さが  $k$ , 1 の数が  $d$  の J-PV の個数を  $X(k, d)$  とする。長さが  $k+1$  の J-PV は、長さが  $k$  の U-PV に 0 を 1 つ付け加えて (1-2) 式の収束条件を充足するか否かを調べればわかる。そこで、長さが  $k$  の U-PV 中の 1 の数を  $d$  とし、 $k$ ,  $d$  に関する関数  $\mu(k, d)$  を、つぎのように定義する。

$$\mu(k, d) = \begin{cases} 1 & : k > d \cdot \log(3) / \log(2) \text{ のとき} \\ 0 & : \text{その他のとき} \end{cases}$$

そうすると、 $X(k+1, d)$  の個数は、U-PV の個数  $W(k, d)$  を利用して計算でき、長さ  $k+1$  の J-PV は長さ  $k$  の U-PV に 0 を加えて収束の可否を調べればよいので、下記の (2-3) 式が成り立つ。

$$X(k+1, d) = \mu(k+1, d) \cdot W(k, d) (k \geq 1), \quad (2-3)$$

ただし、初期値は、 $X(1, 0) = 1$  および  $X(1, 1) = 0$  とする。

以上より、長さが  $k+1$  の J-PV の個数  $X(k+1)$  は、(2-3) の結果の総和となり、

$$X(k+1) = \sum_{d=a}^b X(k+1, d), \quad (2-4)$$

ただし、 $a = 0$  および  $b = \lfloor (k+1) \cdot \log(2) / \log(3) \rfloor$  ( $\lfloor y \rfloor$  は床関数である)。

以上のことから、次の定理が成り立つ。

**【定理 1】** 長さが  $k$  の未収束の  $W(k)$  個のパリティベクトルから生成される、長さが  $k+1$  の未収束のパリティベクトルの個数  $W(k+1)$  は (2-1) 式と (2-2) 式により、さらに確定収束 PV の個数  $X(k+1)$  は、(2-3) 式と (2-4) 式により求めることができる。

**(証明)** 上記の説明どおりである。□

定理 1 により、長さ別の J-PV、A-PV、U-PV の個数を計算すると Table 2-3 のようになる。

Table 2-3 「長さ」別の確定収束 PV, 既収束 PV, 未収束 PV の個数集計表 or (Appendix 1)

項目説明: (A) PV の総数 ( $2^k$ ) (B) 確定収束 PV の個数 (C) 既収束 PV の個数 (D) 未収束 PV の個数 (E) 未収束 PV の比率 D/A

Table 2-3 に、同じ長さの PV の総数と U-PV の個数の比率である「E:未収束比率」を掲載した。長さが増えていくにつれて、未収束比率は限りなく 0 に近づいていることがわかる。Table 2-3 の「E:未収束比率」の数値は、

Eric Roosendaal の論文 [ 3 ] に掲載の  $|W_k|/|V_k|$  (発散比率) の数値と合致しており、Riho Terras の論文 [ 1 ] の Table A. Values of the distribution function  $F(k)$  の補正值と一致することが確認できた。

長さ別の個数計算のコンピュータ出力結果は、下記に示す閲覧用リンクをクリックして確認できる。

[長さ別集計データ] [\[1 ~ 100\]](#) [\[1 ~ 1000\]](#) [\[9000 ~ 10000\]](#) (Appendix 2)

## 2.2 「1の個数」別の確定収束 PV、未収束 PV 生成と個数計算

次に、パリティベクトル中に含まれる「1の個数」が同じ個数のグループ別（以降、「1の個数」別と略称する）の J-PV、U-PV の生成と個数計算の方法を考える。

### 2.2.1 「1の個数」別の確定収束 PV と未収束 PV の生成方法

まず、1の個数別の U-PV を Table 1-3 で調べると、 $d=1$  の U-PV は、 $V=1$  だけであり、 $d=2$  の U-PV は、11 と 110 の 2 個、 $d=3$  の U-PV は、111、1110、1101 の 3 個、 $d=4$  の U-PV は、1111、11110、111100、11101、111010、11011、110110 の 7 個である。

同様に、Table 1-3 より、1の個数別の J-PV を調べると、 $d=1$  の J-PV は、 $V=10$  の 1 つ、 $d=2$  の J-PV は、1100 の 1 つ、 $d=3$  の J-PV は、長さ 5 の 11100、11010 の 2 つである。 $d=4$  の J-PV は、1111000、1110100、1101100 の 3 つである。 $d=5$  以降も U-PV と J-PV は、(1-2) 式の収束条件式をもとにして J-conv. および U-conv. を判別しながら生成することができる。その生成アルゴリズムはつぎのように考えることができる。

**【アルゴリズム 2】** 1の個数が  $d$  個の未収束 PV から 1の個数が  $d+1$  個の未収束 PV と J-converged PV を生成するアルゴリズム

(説明) 長さが  $k$ 、1の個数が  $d$  の U-PV を  $V$  とする。 $V$  に  $x$ (1 または 0) を付け加えることを  $V \oplus x$  と書くことにする。ここで、 $A \rightarrow B$  は、 $A$  の数値（あるいは数列）を  $B$  に置き換えるという意味に使用する。

長さが  $k$ 、1の個数が  $d$  の U-PV から、 $d+1$  個の U-PV と J-PV を求めるアルゴリズム 2 は次のとおりである。1の個数が  $d$  の U-PV に 0 を 1 個加えた  $V \oplus 0$  が U-PV だとすると、 $V \oplus 0$  は 1の個数が  $d$  の U-PV であるので対象外である。したがって、 $d+1$  個の U-PV を生成するのは、 $V \oplus 1$  の PV に 0 を追加していくようにすればよい。

U-PV が複数個存在するときは、それぞれについて実施する。

手続き 1：  $V$  に 1 を付け加えた 1の個数が  $d+1$  個の  $V \oplus 1$  は、長さ  $k+1$  の U-PV である  
 $V \oplus 1 \rightarrow V$ 、 $d+1 \rightarrow d$ 、 $k+1 \rightarrow k$  に置き換える。

手続き 2： さらに手続き 1 または手続き 3 後の  $V$  に 0 を 1 つ加えた PV を長さが  $k+1$  の  $V \oplus 0$  とする。  
 $V \oplus 0 \rightarrow V$ 、 $k+1 \rightarrow k$  に置き換える。

手続き 3： 手続き 2 で作成した PV の収束状況を調べ、  
 $k > d \cdot \log(3)/\log(2)$  を満足したときは、PV は、J-PV である。手続き終了。  
 そうでなければ、PV は、U-PV である。手続き 2 を繰り返す。

(実施例)

$k=5$ ,  $d=4$  の U-PV を  $V=11011$  とする。上記のアルゴリズム 2 に従ってその過程を記述すると、

手続き 1：  $V=11011$  に 1 を加える。 $V \oplus 1=110111$  は長さ  $k=6$ ,  $d=5$  の U-PV である。

$V=110111$  とする

手続き 2：  $V$  に 0 を加えた  $V \oplus 0=1101110$  を  $V$  とし、 $k=7$  とする。

1の個数は変わらず 5 である。

手続き 3：  $V=1101110$  は、 $7 < 5 \times 1.58$  であるから  $k=7$ ,  $d=5$  の U-PV である

手続き 2：  $V=1101110$  に 0 を加え、 $V \oplus 0=11011100$  を  $V$ 、 $k=8$  とする。

1の個数は変わらず 5 である。

手続き 3：  $V=11011100$  は、 $8 > 5 \times 1.58$  であるから  $k=8$ ,  $d=5$  の J-PV である。終了。

この結果  $k=5$ ,  $d=4$  の U-PV 11011 から、 $K=6$  の 110111、 $k=7$  の 1101110 の 2 つの U-PV と  $k=8$  の 11011100 の J-PV が 1 つ生成できる。それらの 1の個数は、 $d=5$  である。なお、生成した未収束 PV と J-converged PV のジェネレータは、1.3 節で説明したように PV の先頭の 1 桁目から逐次計算し求めていく方法と、1.4 節のディオファントス方程式を解いて求める方法がある。

上記のアルゴリズム 2 を実行することにより、下記の Table 2-4 の U-PV リストと Table 2-5 の J-PV リストが

作成できる。

Table 2-4 「1の個数」別の未収束 PV リスト or (Appendix 1)

Table 2-5 「1の個数」別の確定収束 PV リスト or (Appendix 1)

### 2.2.2 「1の個数」別 J-converged PV と未収束 PV の個数計算

「1の個数」別の J-PV と U-PV の個数計算は、2.2.1 で説明したアルゴリズム 2 の中でカウントすることができるが、ここでは、個数計算用の漸化式を立式して計算することにする。

(1) 「1の個数」別 U-PV の個数計算 まず、先頭が 0 の PV は J-PV または A-PV であるので、先頭が 1 の PV を対象とする。

いま、1 の数が  $d$ 、0 の数が  $u$  の U-PV の個数を  $W(d, u)$  とする。PV が U-PV であるか否かを判断するためには、 $d, u$  に関するつきの関数  $\epsilon(d, u)$  を定義する。

$$\epsilon(d, u) = \begin{cases} 1 & : (d + u) < d \cdot \log(3) / \log(2) \text{ のとき} \\ 0 & : \text{その他のとき} \end{cases}$$

この条件を使って、 $W(d, u)$  の個数がわかっているとき、 $W(d+1, u)$  の個数を求める。

1 の数が  $d$  個、0 の数が  $u$  個の U-PV から 1 の数が  $d+1$  個の U-PV は、その U-PV に 1 を付け加えることによって得られる。したがって、その個数  $W(d+1, u)$  は

$$\textcircled{1} \quad W(d+1, u) = \epsilon(d+1, u) \cdot W(d, u)$$

さらに、 $W(d+1, u)$  の U-PV に 0 を複数個付け加えることによって生成される PV が U-PV になる個数は $\textcircled{2}$ 。

$$\textcircled{2} \quad W(d+1, u+1) = \epsilon(d+1, u+1) \cdot W(d+1, u)$$

上記の $\textcircled{1}, \textcircled{2}$ 式から、1 の数が  $d+1$  個の U-PV の個数は、下記の (2-5) 式より求めることができる。

$$W(d+1, u) = \epsilon(d+1, u) \{W(d, u) + W(d+1, u-1)\}, \quad (2-5)$$

ただし、初期値は、 $W(1, 0) = 1$ ,  $W(1, 1) = 0$ ,  $W(d, u) = 0$  ( $u < 0$ ) である。

以上より、1 の数が  $d+1$  個の U-PV の総数  $W(d+1)$  は、(2-5) 式の結果の総和で求まる。

$$W(d+1) = \sum_{u=a}^b W(d+1, u), \quad (2-6)$$

ただし、 $a=0$  および  $b = \lfloor (d+1) \cdot \log(3) / \log(2) - 1 \rfloor$  ( $\lfloor y \rfloor$  は床関数である)。

### (2) 「1の個数」別 J-PV の個数計算

つぎに、1 の個数が  $d+1$  個の J-PV の個数を計算する。

J-PV の個数は、2.2.1 の J-PV と U-PV 生成のアルゴリズム 2 から得られる。1 の個数が  $d+1$  個の J-PV は、1 の個数が  $d$  個の U-PV に 1 を付け加え、その後に収束条件を満足するまで 0 を付け加えれば J-PV が得られる。したがって、1 の個数  $d+1$  の J-PV の個数  $X(d+1)$  は、1 の数が  $d$  個の U-PV の総数  $W(d)$  と同じになり、下記の (2-7) 式が成立する。

$$X(d+1) = W(d) \quad (2-7)$$

以上のことから、次の定理が成り立つ

**【定理 2】** 1 の数が  $d$  個の未収束の  $W(d)$  個のパリティベクトルから生成される、1 の数が  $d+1$  個の未収束のパリティベクトルの個数  $W(d+1)$  は (2-5) 式と (2-6) 式により、さらに just 収束のパリティベクトルの個数  $X(d+1)$  は、(2-7) 式により求めることができる。

(証明) 上記の説明どおりである。□

定理 2 より、1 の個数別の J-PV と U-PV を計算すると Table 2-6 のようになる。

なお、1の個数が同じの有限/無限の長さの PV のうち、J-PV と U-PV 以外の PV はすべて A-conv. の PV であることは明らかである。

Table 2-6 「1の個数」別の確定収束 PV と未収束 PV の個数集計表 or (Appendix 1)

「1の個数」別の個数計算のコンピュータ出力結果は、下記に示すリンクをクリックして確認できる。

[1の個数別集計データ] [1 ~ 100] [1 ~ 1000] [9000 ~ 10000] or (Appendix 2)

### 3 パリティベクトル利用によるコラツツ予想の考察

これまで説明してきたパリティベクトルに関する結果や後述するパリティベクトルの特徴等に基づき、我々がコンピュータ利用により獲得した実測データ、そのデータ分析のためのツールの開発、そしてデータ分析結果について説明する。これらの成果物は、コラツツ予想解決の一助になるものと期待する。

#### 3.1 パリティベクトルの図的表示とパリティベクトルの特性値の設定

以降の分析を行うために開発したパリティベクトル俯瞰図と PV の特性値を表すために導入した指標について説明する。

##### 3.1.1 パリティベクトル俯瞰図の役割

J-PV、U-PV、そして A-PV の軌跡を図的表示すると収束状況が視覚的に把握でき分かりやすくなる。そこで、下記の(1)と(2)の機能をもつコンピュータプログラムを作成し、調査・分析作業のツールとして活用した。このパリティベクトルの挙動を表示した図を、PV の俯瞰図 (Bird's-eye view of the parity vector) と呼ぶことにする。(1) 所与のパリティベクトル (PV) の軌跡を表示し、PV の先頭から 1つずつ長さを増やした各部分 PV に対応するジェネレータ、ストッピングタイム (グライド、v 収束回数と同じ)、比率 (ストッピングタイム / 部分 PV の長さ) などの特性値を算出し一覧表示する。

(2) 所与の正の整数 N のコラツツ数列がストッピングタイムを持つならば、1に到達するまでの PV を生成し、その PV の軌跡とストッピングタイムおよびトータルストッピングタイムを表示する。

[アルゴリズム 3] PV の俯瞰図の骨格を作成し、有限の長さの任意のパリティベクトルを表示するアルゴリズムは、つぎのとおりである。

(説明) PV の長さを k、PV 中の 1 の数を d としたとき、収束条件式 (1-2) に基づき、k と d と v 収束回数 (ストッピングタイム) との関係を算出した Table 1-2 を参照して、俯瞰図の骨格を作成することができる。

① 縦軸を長さ k、横軸を 1 の個数 d とする k-d 座標セルテーブルを作成し、PV の長さごとに v 収束する k と d の対に対応する座標セル (k,d) に”0”を記載する。このセルを確定収束セル (JC セル) と呼ぶことにする。

② 各長さに対応する JC セルの繋がりを境界として、その右側の領域を「未収束 PV 領域」と呼び、境界の左側の領域を「収束済み PV 領域」と呼ぶ。

③ 任意の長さの PV をプロットする方法は次のとおりである。

まず、先頭の数字が”0”的場合は、座標セル (1,0) に”0”を設置する。先頭の数字が”1”的場合は、座標セル (1,1) に”1”を設置する。

④ 2 桁目以降は、”0”的場合は、直下の座標セルに”0”を設置し、”1”的場合は右斜め下の座標セルに”1”を設置する。一般的には、k 桁目の数が設置された座標が (k,d) とすると、k+1 桁目の数は、”0”的場合は、直下の座標セル (k+1,d) に”0”を設置し、”1”的場合は右斜め下の座標セル (k+1,d+1) に”1”を設置する。そして、最後の桁まで④を繰り返す。

⑤ PV のすべての桁がプロットされた時、最後の数が JC セルで止まれば、その PV は即収束 PV (J-PV) であることを意味し、JC セルに到達していなければ未収束の PV (U-PV) であることを示す。さらに、JC セルを通り越している PV は、すでに収束済みの PV (A-PV) になる。

Figure 1 は (1) の例で、長さ 13 の PV = 1111011100010 を入力した軌跡図である。Figure 1 の表中の左の欄の k は PV の長さを示し、見出しの d の数字は、PV 中の 1 の数の累計数を示す。Figure 2 は、PV の先頭からの長さ別の部分 PV の特性値一覧である。

Figure 1 PV (パリティベクトル) の軌跡の図的表現 (PV 俯瞰図) ) or (Appendix 1)

---

Figure 2 PV (パリティベクトル) の長さ別属性値の例 or (Appendix 1)

---

Figure 3 に長さ 7 の J-PV の 1101100 (ジェネレータ=59)、長さ 11 の U-PV11011111010 (ジェネレータ=27)、長さ 11 の A-converged PV 11011010001 (ジェネレータ=123) の軌跡を表示する。

---

Figure 3 確定収束 PV、未収束 PV、および既収束 PV の軌跡の事例 or (Appendix 1)

---

[デモンストレーション 2] (1) のパリティベクトルの軌跡の図的表示と部分 PV の属性は [Program 2](#) をクリックして確認できる。 (Appendix 2)

Figure 4 は (2) の例示である。

---

Figure 4 正の整数 N の PV(パリティベクトル) の図的表現 or (Appendix 1)

---

[デモンストレーション 3] (2) の正の整数 N のパリティベクトルの軌跡の図的表示は [Program 3](#) をクリックして確認できる。 (Appendix 2)

### 3.1.2 PV の特性値「PV の収束度率 (PV Convergence Ratio)」の指標について

3.1.1 のパリティベクトルの俯瞰図作成プログラムの機能説明 (1) で触れた、PV の特性値として次の 2 つの指標を設定する。

(1) ST 収束度率 (ストッピングタイムを利用)：ある整数 (ジェネレータ) の PV の長さとその PV のストッピングタイム (グライドあるいは v 収束回数) の比率

$$\text{ST 収束度率} = \text{ストッピングタイム} / \text{PV の長さ}$$

(2) TST 収束度率 (トータルストッピングタイム利用)：ある整数 (ジェネレータ) の PV の長さとコラツツ数列が 1 に到達するまでの回数 (トータルストッピングタイムあるいは Delay) の比率

$$\text{TST 収束度率} = \text{トータルストッピングタイム} / \text{PV の長さ}$$

これらの比率は、ある長さの PV と、確定収束する PV の長さおよび 1 に収束するまでの PV の長さとを比較するものである。それぞれ元の PV の長さの何倍で収束するかを示す指標である。数値が大きければ大きいほど収束するまでの軌跡が長いことを意味する。これらの指標は、後続のデータ分析にて活用する。

以下に、ST 収束度率と TST 収束度率の例を示す。

(例)

① 長さ 4 の 1101(ジェネレータは 11) のストッピングタイムは 5 でトータルストッピングタイムは 10、つまり確定収束 PV(11010) の長さは 5 である。したがって、ST 収束度率=5/4 = 1.25、TST 収束度率=10/4 = 2.5 となる

② 長さ 5 の 11011(ジェネレータは 27) のストッピングタイムは 59 でトータルストッピングタイムは 70、つまり確定収束 PV の長さは 59 である。したがって、ST 収束度率=59/5=11.8、TST 収束度率=70/5=14 となる。

③ 長さ 15 の 111111111111111(ジェネレータは 32767) のストッピングタイムは 51 でトータルストッピングタイムは 85、つまり確定収束 PV の長さは 51 である。したがって、ST 収束度率=51/15=3.4、TST 収束度率=85/15≈5.67 となる

④ 長さ 12 の 110011101011(ジェネレータは 1491) のストッピングタイムは 4 でトータルストッピングタイムは 60、つまり PV の長さは 12 であるが、収束回数は 4 の A-PV なので、ST 収束度率=4/12 ≈ 0.333 は 1 未満、TST 収束度率=60/12=5 となる。

⑤ 長さ 18 の 110111111010101000(ジェネレータは 68891) のストッピングタイムは 18 でトータルストッピングタイムは 113、つまり長さが 18 の確定収束 PV である。したがって、ST 収束度率=18/18=1、で TST 収束度率=113/18≈6.28 である。

以上の例から分かるように、ST 収束度率が 1 の PV は J-PV であり、1 以上の PV は U-PV、そして、1 未満の PV は A-PV である。なお、ST 収束度率の大小は、PV の長さとは無関係である。

## 3.2 パリティベクトルに関する各種の特性データとそれらの分析結果について

### 3.2.1 長さ別の J-PV と U-PV の個数計算の結果について

2.1.2 節で長さ別の J-PV と U-PV の個数計算をし、Table 2-3 に長さ別の未収束率を掲載した。その率は、PV の長さ  $k$  を無限に増加させていくと限りなく 0 に近づいていくことが確認できる。当然、対象とする PV の長さは無限に大きくなるので、ある長さの PV グループの未収束率が決して 0 になることはない。

しかし、Riho Terras (文献 [1]) が証明したコラツ  $y$  予想と同値の「 $N > 1$  のほとんどすべての整数  $N$  は、有限のストッピングタイムをもつ」 (文献 [2]Terras の定理参照) という事実を裏付ける実測データをいくつか示すことができる。

以下にそれらのデータを示し分析を試みる

#### [データ分析 1] 剰余類 $N_r = \{2^5m + r\}$ 別データの PV 収束度率について

すべての  $N > 1$  の整数  $N$  は剰余  $r$  によって分類される 32 個の剰余類のある  $N_r = \{2^5m + r\} (0 \leq r < 2^5)$  に属する。それぞれの剰余類  $N_r$  のストッピングタイムは、1.2 節の Table 1-1 で示したように、 $r=7, 15, 27, 31$  以外の  $r$  の場合は、5 以下のストッピングタイムである。計算は省略するが、それらの剰余類の各整数をジェネレータとする PV の ST 収束度率を求めるすべて 1 未満となる。

つぎに、 $r=7, 15, 27, 31$  の各剰余類別の整数に対応する PV の収束度率を求め、長さ別の最大 ST 収束度率と最大 TST 収束度率、およびそれに対応する PV (ジェネレータ) をまとめると下記の Table 3-1 のようになる。  
( $1 \leq k \leq 35$ )

Table 3-1 剰余類  $N_r = \{2^5m + r\}$  ( $r=7, 15, 27, 31$ ) 要素の ST 収束度率 or (Appendix 1)

表中の太字の数は、各同一長さの  $r=7, 15, 27, 31$  剰余類の中で最大の ST 収束度率を示す。

$r=7, 15, 27, 31$  の剰余類別に、ST 収束度率をプロットすると、Figure 5 のようになる。

Figure 5 剰余類  $N_r = \{2^5m + r\}$  ( $r=7, 15, 27, 31$ ) 要素の St 収束度率グラフ or (Appendix 1)

Figure 5 で分かるように、長さが 1 以上 35 以下の範囲のデータであるが、 $r=7, 15, 27, 31$  の 4 つの剰余類の整数はすべてストッピングタイムをもち、長さが 5 以上から増加するにしたがって ST 収束度率は緩やかに増加していく傾向にある。

#### [データ分析 2] グライドに関する指標データについて

つぎに、コンピュータを利用して実測したグライド (ストッピングタイム) に関するグライドレコード (Glide Record) と  $K\text{-max-}G(N)$ 、それらのデータの ST 収束度率をまとめたものを Table 3-2 に、 $K\text{-max-}G(N)$  の ST 収束度率のグラフを Figure 6 に示す。

グライドレコード (Glide Record) とは、Eric Roosendaal (文献 [2]) が定義した指標である。ある正の整数  $N$  のグライドを  $G(N)$  と表すと、 $M < N$  なるすべての整数  $M$  に対して  $G(M) < G(N)$  が成立するとき、 $N$  をグライドレコードとよぶ。

例えば、整数 1 と 2 は明白なグライドレコードであるが、それ以外では、 $G(3)=4, G(7)=7, G(27)=59, G(703)=81$  の 3, 7, 27, 703 などが該当する。表中のグライドレコードのデータは Eric Roosendaal が複数の研究者の実測データをまとめて編集したものでインターネットに公開されているものである。

$K\text{-max-}G(N)$  は、グライドレコードより細かいデータでジェネレータ  $N$  の区間  $[2^k, 2^{k+1} - 1]$  ( $k \geq 0$ ) ごとの整数  $N$  のグライドを実測し、各区間ごとの最大のグライドを示したものである。2 の 40 乗以上は、欠測データであるが、一部の区間のデータはグライドレコードのデータを共有した。Table 3-2 のグライドデータの意義は、長さ  $k$  が 1~61 の PV に対応するすべての整数値はすべて収束することを意味していること、特に、各区間  $[2^k, 2^{k+1} - 1]$  ( $0 \leq k \leq 61$ ) において  $K\text{-Max-}G(N)$  (グライドの最大値) の存在は、各区間に属する整数値はすべて収束する (有限のグライドを持っている) ことを示している。

Table 3-2 グライドレコード (Glide Record) と  $K\text{-Max-}G(N)$  の ST 収束度率 or (Appendix 1)

さらに、Figure 6 から各区間の  $K\text{-max-}G(N)$  の ST 収束度率は、約 18 以下で PV の長さが増加しても急激に大

きく変化することはないと推測できるが理論的に保証することはできない。

---

Figure 6 K-Max-G(N) の ST 収束度率グラフ or (Appendix 1)

---

### 3.2.2 「1 の個数」別の J-PV と U-PV の個数計算の結果について

2.2 節で「1 の個数」が  $k$  個の U-PV から  $k+1$  個の J-PV と U-PV を生成してその個数計算を行った。その結果からつぎのような事実が確認できた。

(1) 「1 の個数が  $d$  個」の U-PV のいくつか（すべてではない）は、同じ「1 の個数が  $d$  個」グループ内の J-PV に収束する。

(2) (2-7) 式の  $X(d+1) = W(d)$  から「1 の個数が  $d+1$  個」の J-PV の個数は、「1 の個数が  $d$  個」の U-PV の個数と同じ個数である。したがって、

$$\sum_{d=1}^n (X(d+1) - W(d)) = 0 \quad (2-8)$$

が成立する。

上記のことを、Table 3-3 の事例で説明する。

---

Table 3-3 「1 の個数」別の確定収束 PV と未収束 PV の関係 or (Appendix 1)

---

表中の太線枠で囲んだ部分の PV は、下記の (A) と (B) である。

(A) 「1 の数が 4 個」の 3 つの J-PV

① 1101100 (59), ② 1110100 (7), ③ 1111000 (15)

(B) 「1 の数が 4 個」の長さが異なる U-PV

④ 11011(27), 110110(59), ⑤ 11101(7), 111010(7), ⑥ 1111(15), 11110 (15), 111100 (15)

「1 の数が 4 個」の上述以外の PV はすべて A-PV である。

ちなみに④, ⑤, ⑥ の U-PV は、「1 の数が 3 個」の 3 つの U-PV 1101, 1110, 111 から生成された PV である。

ここで、④ の U-PV 110110(59) は、0 を付け加えることによって① の J-PV 1101100(59) になる。つまり、ジェネレータの 59 は収束する。しかし、④ の U-PV 11011(27) は、「1 の数が 4 個」のグループの中では J-PV にならない。同様に、⑤ の 2 つの U-PV は? の J-PV になり、⑥ の 3 つの U-PV は③ の J-PV になる。すなわち、この例では、「1 の数が 4 個」の U-PV の 7 個のうち、6 個は収束するが、1 個は未収束である。加えて、表中で分かるように「1 の数が 5 個」の J-PV の個数は 7 個であり、「1 の数が 4 個」の U-PV の個数 7 個と合致する。

結論として、「1 の数が  $d$  個」のグループの U-PV は、そのすべてが同じグループ内で収束することは保証されないが、その個数と同じだけ、「1 の数が  $d+1$  個」の PV グループ内で収束する J-PV が存在する。

つぎに、特徴あるデータの分析として、前述した PV の俯瞰図の未収束領域の上限の PV データと下限の PV データを取り上げる。

[データ分析 3] 未収束領域の上限の PV (Upper limit PV data in 未収束領域)

未収束領域の上限の PV は、すべて 1 の PV であるのでジェネレータは、 $2^n - 1 (n \geq 1)$  で表すことができる。

$2^n - 1 (n \geq 5)$  の整数は、 $N_{31} = \{2^5 m + 31\}$  に属する数である。

下記に、 $1 \leq n \leq 10000$  の値についての ST 収束度率とそれらをプロットした Figure 7 を掲載する。

$2^n - 1$  の PV の ST 収束度率は、 $n \geq 500$  では 3 から 5 以内で、フラットなグラフである。 $2^n - 1$  の整数は、すべて有限のグライドをもつものと予想される。

---

Figure 7 俯瞰図上限 PV のジェネレータ= $2^n - 1 (n: 1 \sim 10000)$  の ST 収束度率グラフ or (Appendix 1)

---

さらに、補題 2 で述べたように、指定されたストッピングタイム（グライド）を持つ整数（ジェネレータ）を求める方法として、収束しない領域の上限 PV を利用することが可能である。

ストッピングタイム= $k$  の J-PV を求めるには、まず、上限 PV における連続する 1 の数を  $d$  とする。そして、収束条件式  $k > d \cdot \log(3) / \log(2)$ 、すなわち  $d < k \cdot \log(2) / \log(3)$  を満たす最大の整数  $d$  を求める。そうすると、目的の J-PV は  $d$  個の 1 とそれに続く  $(k-d)$  個の 0 を持つことになる。

たとえば、 $k=10$  の場合、 $d=6$  となるので、J-PV の候補は 1111110000 となる。この PV のジェネレータは 575 で、ストッピングタイムは 10 となる。ジェネレータは、補題 7 に基づく逐次計算または 1.4 節で説明したディオファンツ方程式を解くことによって計算できる。

[デモンストレーション4] 指定したストッピングタイム(グライド)を持つ整数(ジェネレータ)は、Program 4をクリックして求めることができる。(Appendix 2)

さらに、 $M = 2^k - 1$  とおいたとき、 $k$  が奇数の場合 ( $k=2n-1$ ) と偶数 ( $k=2n$ ) の場合の、2つのコラッツ数列にはつぎのような関係が成り立つ。ただし、 $n$  は同一の整数とする。

【補題 10】  $M_1 = 2^{2n-1} - 1, M_2 = 2^{2n} - 1$  とすると、 $M_1$  と  $M_2$  の 2 つのコラッツ数列の要素が一致するものが存在する。

(証明)  $S_0(M) = 2^k - 1$  とおいたとき、コラツツ操作を  $k$  回繰り返すと  $S_k(M) = 3^k - 1$  となる。

①  $S_0(M_1) = 2^{2n-1} - 1$  、(2n-1) 回のコラッツ操作で  $S_{2n-1}(M_1) = 3^{2n-1} - 1$  となる。これは、偶数であるから  $(3^{2n-1} - 1)/2$  を変形すると

$(3^{2n-1} - 1)/2 = (3 \times 3^{2(n-1)} - 1)/2 = \{2 \times 3^{2(n-1)} + (3^{2(n-1)} - 1)\}/2 = 3^{2(n-1)} + (3^{2(n-1)} - 1)/2$  となり、奇数 + 偶数 = 奇数 となる。したがって、

$$S_{2n}(M_1) = (3^{2n-1} - 1)/2$$

$$S_{2n+1}(M_1) = \{3 \times ((3^{2n-1} - 1)/2) + 1\}/2 = ((3^{2n} - 3)/2 + 1)/2 = (3^{2n} - 1)/4.$$

となる。

② 他方、 $S_0(M_2) = 2^{2n} - 1$  は  $2n$  回のコラツツ操作で  $S_{2n}(M_2) = 3^{2n} - 1$ 。

$S_{2n}(M_2) = 3^{2n} - 1 = (3n + 1)(3n - 1)$  は 偶数  $\times$  偶数となるので

①と②より  $S_{2n+1}(M_1) = (3^{2n} - 1)/4 = S_{2n+2}(M_2)$  が成立し、 $M_1$  と  $M_2$  の 2 つのコラッツ数列の要素が一致

補題 10 が成立することは、 $n$  が同一の整数の時、 $M_1 = 2^{2n-1} - 1$  が 1 に収束すれば（トータルストッピングタイ

ムを持ってば)、 $M_2 = 2^{2n} - 1$  も 1 に収束する(トータルストッピングタイムを持つ)。また、 $M_1 = 2^{2n-1} - 1$  が、無限に 1 に収束しなければ、 $M_2 = 2^{2n} - 1$  も無限に 1 に収束しないことになる。そ

[二 タ分析 4] 支返支領域の下限の PV<sub>u</sub> (I<sub>u</sub> = 1) の PV<sub>u</sub> 1 + f<sub>u</sub> (支返支領域)

#### [データ分析4] 未収束領域の下限のPV (Lower limit PV data of the 未収束領域)

【アリゴリズム4】走査車領域の下限の PV は次のようにして求めることができる

(説明) あらかじめ、Figure 1 の PV 俯瞰図が作成されていることを前提にし、その縦軸の「長さ (k)」と横軸の「1 の個数 (d)」のセルの座標を  $(k, d)$  と表記する。以下の説明中、PV 俯瞰図の確定収束セル（数字が 0 のセル）は JC セルと略す。

未収束領域の下限の PV は、(1,0) の JC セルの右側のセル座標 (1,1) に 1 を設定することから始まる。

その後は、JC セルの座標が  $(k, d)$  のときはその右側のセル  $(k, d+1)$  に 1 を設置する。JC セルが無い長さ  $k+1$  の行は、1 が設定されているセル  $(k, d+1)$  の直下のセル  $(k+1, d+1)$  に 0 を設置する。

この操作を繰り返すことによって未収束領域の下限の PV を作成することができる。

[デモンストレーション 5] 未収束領域の下限の PV は、Program 5 をクリックして作成できる。 (Appendix 2)

その操作によって下限の PV の長さを 1000 まで作成するとそのストリングは下記のとおりになる。

**【補題 11】** 未収束領域の下限の PV の長さが 5 以上の k 桁 ( $k \geq 5$ ) の PV の各ジェネレータは,  $2^5m + 27$  の整数である。

(証明) この PV の 5 以上の長さの各ジェネレータは、先頭の 5 けたのストリングは 11011 であるので、そのジェネレータは 27、その後は 1 または 0 を付け加えて、長さが 1 増えていくのでそれらのジェネレータは、 $2^5m + 27$  で表すことができる。したがって、下限の PV の先頭から長さ  $k(\geq 5)$  桁以上の各 PV のジェネレータは、 $\{2^5m + 27\}(m \geq 0)$  に属することがわかる。□

このデータ分析では、10,000 桁の長さの PV を生成して、ST 収束度率を計算し、それらをプロットした図を Figure 8 に示す。

下限の PV の ST 収束度率は、ほとんどが 2 倍以内で、長さが 10 以上のグラフはフラットである。

---

Figure 8 俯瞰図下限 PV の (1~10000) の ST 収束度率グラフ or (Appendix 1)

---

ちなみに、下限の PV の任意の位置の 1 を 0 に替えると、その位置までの長さ (例えば  $k$ ) の PV は収束しストッピングタイム =  $k$  となることがわかる。したがって、ストッピングタイムが  $k$  の Just PV を求めるときは、下限の PV の先頭から  $k$  桁目の 1 を 0 に替えれば良い。

[デモンストレーション 6] 補題 2 に記載した「指定したストッピングタイム (グライド) をもつ整数を求める」には、上述の「下限の PV による方法」が利用できる。その具体的な手続きは、Program 6 をクリックして確認できる。 (Appendix 2)

## 4 結論

前述した 3.1 節のパリティベクトルの俯瞰図を眺めて、「すべての PV が収束する (ストッピングタイムを持つ)」という命題が、肯定的に成立すると予想できる根拠となる実測データの分析結果をまとめる。

以下、俯瞰図の縦軸の PV の長さ ( $k$ ) の観点から眺めた場合と、俯瞰図の横軸の「PV 中の 1 の個数 ( $d$ )」の観点から眺めた場合の 2 つに分けて考察する。

### (1) PV の長さ ( $k$ ) の観点からの考察

$k$  の値が小から大に向かって (縦軸の上から下に向かって)、同じ長さのすべての PV (対応するジェネレータ) は有限のグライドをもつものと予想できる。その根拠は Table 2-3 に示すように、同じ長さの PV の総数と U-PV の個数の比率である「E: 未収束比率」は、長さが増えていくにつれて、限りなく 0 に近づいていく。

例えば、長さが 10000 の PV (ジェネレータで表すと  $1 \sim 2^{10000}$ ) の場合、未収束率は  $2.394397e - 156$  となり、極小の率である。しかし、長さ  $k \rightarrow \infty$  としても、未収束率は 0 になることはない。その理由は、長さが  $k$  の未収束 PV (ジェネレータ=N) に 1 をつけ加えた長さ  $k+1$  の PV は、必然的に未収束 PV (ジェネレータ=N か  $N+2k$ ) になるからである。したがって、必要な調査は、同じ長さの未収束 PV がすべて収束するとなればいつ収束するかがわかると良い。その点については、数学的・論理的な証明はできていないが、上述したデータ分析により「長さが  $k$  の未収束 PV (ジェネレータ=N) はすべて長さが  $k+p$  ( $0 < p < \infty$ ) の PV (ジェネレータ=N) で収束する」ということが推測できることである。

① [データ分析 1] の整数  $N = 2^5m + r$  の  $r=7, 15, 27, 31$  の 4 つの剩余類の長さ別 PV の最大 ST 収束度率の実測データから「4 つの剩余類のすべては、長さの増加に伴い最大 ST 収束度率は有限の大きさで緩やかに増加していく」傾向が確認できる。

② [データ分析 2] のグライドレコードおよび K-Max-G(N) の指標データの分析から、長さが  $k$  の未収束 PV は、長さが  $k+p$  ( $0 < p < \infty$ ,  $k+p$  は、長さ  $k$  に属する PV のグライドレコード または  $k$ -Max-G(N) である) の PV グループですべて収束することを示している。

③ [データ分析 3] の PV 俯瞰図の未収束領域の上限の  $PV = 111111 \dots$  (ジェネレータは  $2^k - 1, 0 < k$ ) は、Figure 7 でわかるようにその ST 収束度率は、 $k \geq 500$  のとき 3 以上 5 以下の値であると推測できる。したがって、 $2^k - 1$  の整数は、すべて有限のグライドをもつものと予想される。

④ [データ分析 4] の未収束領域の下限の PV の場合、長さが 10 以上の PV の ST 収束度率は、2 以下である。下限の PV の部分 PV に対応するジェネレータは、すべて有限のグライドをもつものと予想される。

## (2) 「1 の個数 $d$ 」の PV の観点からの考察

$d$  の値が小から大に向かって（横軸の左から右に向かって）、その「1 の個数」が同じ PV は、すべて収束していく状況が見られる。その根拠は、3.2.2 の J-PV と U-PV の個数計算から得られた、「1 の個数が  $d$  個」の U-PV の個数は、「1 の個数が  $d+1$  個」の J-PV の個数と同じ個数である。そして、「1 の個数が  $d+1$  個」の J-PV は、「1 の個数が  $d+1$  個」の U-PV に 0 をいくつか付け加えたものである。このことは、 $d$  の数が有限個の U-PV は、すべて収束することを示唆する。しかしながら、無限に発散する U-PV が存在するならば、この事実は成立しないことを付け加えたい。

以上、Collatz 予想が肯定的に成立する証明はできなかったが、コラッツ予想が成立するであろうという裏付けのデータは示すことができたと確信する。

我々の研究成果が、パリティベクトルを利用してコラッツ予想を解決することを目指す研究者にとって役立つ情報であることを期待する。

### (利益相反)

著者は、この論文の出版に関して利益相反がないことを宣言します。

### (謝辞)

本論文の作成にあたりご支援をいただいた下記の各氏に謝意を表します。

岡田政則氏（博士 [情報科学]、前金沢学院大学教授）には、コラッツ問題やプログラミングの技術的な問題について様々な情報を提供していただいた。

樋川浩史氏（理学修士、数学教育専門家）には、本論文の原稿を細部にわたって校閲していただき、貴重な助言をいただいた。

## 参考文献

- [1] Riho Terras, *A Stopping Time Problem on the Positive Integers* Acta. Arithmetica, vol.30(1976), pp.241-252, DOI 10.4064/aa-30-3-241-252,  
<http://matwbn.icm.edu.pl/ksiazki/aa/aa30/aa3034.pdf>
- [2] Eric Roosendaal, *The Terras Theorem, in "On The  $3x + 1$  Problem"*,  
<http://www.ericr.nl/wondrous/terrass.html>
- [3] Eric Roosendaal, *On The  $3x + 1$  Problem*,  
<http://www.ericr.nl/wondrous/index.html>.
- [4] Mike Winkler, *New Results on the Stopping Time Behavior of the Collatz  $3x + 1$  Function*, DOI 10.48550/arXiv.1504.00212 (2015),  
<https://arxiv.org/abs/1504.00212> [math.GM]
- [5] Mike Winkler, *The Recursive Stopping Time Structure of the Function*, DOI 10.48550/arXiv.1709.03385 (2018),  
<https://arxiv.org/abs/1709.03385> [math.GM]
- [6] David C. Kay, *Collatz Sequences and Characteristic Zero-One Strings:Progress on the  $3x + 1$  Problem*, American Journal of Computational Mathematics, 2021, vol.11, pp.226-239, DOI 10.4236/ajcm.2021.113015,  
[https://www.scirp.org/pdf/ajcm\\_2021092915185466.pdf](https://www.scirp.org/pdf/ajcm_2021092915185466.pdf)

# コラッツ予想：パリティベクトル解析から導かれる命題

Collatz Conjecture: Propositions derived from Parity Vector Analysis

## APPENDIX 1 (図表 : Tables and Figures)

Table 1-1 剰余類  $N_r = \{2^5m + r\}$  要素のストッピングタイム

<b>r</b>	<b>偶数</b>	<b>1,5,9,13,17,21,25,29</b>	<b>3,19</b>	<b>11,23</b>	<b>7,15,27,31</b>
$\sigma(Nr)$	1	2	4	5	存在するとき 6以上

Table 1-2 PV の長さ k、1 の個数  $d(j)$  および v 収束回数の間の関係

長さ k	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
$d(j)$	0	1		2	3		4	5		6
v収束回数 j	1	2		4	5		7	8		10
長さ k	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
$d(j)$	6	7	8	9	10		11		12	
収束回数 j		12	13	15	16		18		20	
長さ k	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
$d(j)$	13	14	15	16	17		18			
v収束回数 j	21		23	24	26	27		29		
長さ k	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
$d(j)$	19	20	21	22	23		24		25	
v収束回数 j	31	32	34	35	37		39		40	
長さ k	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
$d(j)$	25	26	27	28	29		30		31	
v収束回数 j		42	43	45	46		48		50	

Table 1-3 収束条件式による PV(パリティベクトル) の  
収束状況調査例

PV 長さ ↓	収束回数 →	1	2		4	5	PVの収束状況 (下注参照)
		PVの長さ →	1	2	3	4	
1	0	0					Just
	1	1.58					
2	11	1.58	3.16				
	10	1.58	1.58				Just
3	111	1.58	3.16	4.74			
	110	1.58	3.16	3.16			
	101	1.58	1.58	3.16			Already
	100	1.58	1.58	1.58			Already
4	1111	1.58	3.16	4.74	6.32		
	1110	1.58	3.16	4.74	4.74		
	1101	1.58	3.16	3.16	4.74		
	1011	1.58	1.58	3.16	4.74		Already
	1100	1.58	3.16	3.16	3.16		Just
	1010	1.58	1.58	3.16	3.16		Already
	1001	1.58	1.58	1.58	3.16		Already
5	1000	1.58	1.58	1.58	3.16		Already
	11111	1.58	3.16	4.74	6.32	7.9	
	11110	1.58	3.16	4.74	6.32	6.32	
	11101	1.58	3.16	4.74	4.74	6.32	
	11011	1.58	3.16	3.16	4.74	6.32	
	10111	1.58	1.58	3.16	4.74	6.32	Already
	11100	1.58	3.16	4.74	4.74	4.74	Just
	11010	1.58	3.16	4.74	4.74	4.74	Just
	10101	1.58	3.16	3.16	4.74	4.74	Already
	10001	1.58	3.16	3.16	3.16	4.74	Already
	10110	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74	Already
	10100	1.58	1.58	3.16	3.16	4.74	Already
	10011	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	Already
	11000	1.58	3.16	3.16	3.16	3.16	Already
6	10100	1.58	1.58	1.58	3.16	3.16	Already
	10010	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10110	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	11001	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	11100	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	11011	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10111	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10001	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10101	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10010	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10000	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10111	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10100	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10011	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74
	10000	1.58	1.58	1.58	3.16	4.74	4.74

(注) Just は確定収束PV、Alreadyは既収束PV、収束状況が空白のPVは、un converged(未収束)PVである。

Table 1-4 「長さ」別の確定収束 (J-converged)PV と  
未収束 (Un converged)PV 例

PVの長さ	1	2	3	4	5	6
PV中の1の個数	0	1	1	2	3	3
v 収束回数	1	2		4		5
Number of 確定収束PVの個数	1	1	0	1	2	0
確定収束PV	0	10		1100	11100	
					11010	

PVの長さ	1	2	3	4	5	6
未収束PVの個数	1	1	2	3	4	8
未収束PV	1	11	111	1111	11111	111111

Table 2-1 「長さ」別の未収束 PV リスト（一部抜粋）

Table 2-2 「長さ」別の確定収束 PV リスト（一部抜粋）

PVの長さ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
PV中の1の個数	0	1	1	2	3	3	4	5	6	7	8
v 収束回数	1	2		4	5		7	8		10	
確定収束PVの個数	1	1	0	1	2	0	3	7	0	12	0
確定収束PV	0	10		1100	11100 11010		1111000 1110100 1101100 11011100 11011010	11111000 11110100 11110010 11101100 11101010 11011100 11011010		1111110000 1111101000 1111100100 1111011000 1111010100 1111001100 1110111000 1110110100 1110101100 1101111000 1101110100 1101101100	

Table 2-3 「長さ」別の確定収束 PV, 既収束 PV, 未収束 PV の個数集計表

PVの長さ (k)	(A)*1	(B)	(C)	(D)	(E)	PVの長さ (k)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	
1	2^1		1	0	1	0.5	200	2^200	4.151050E+53	1.606933E+60	4.917911E+54	3.060424E-06
2	2^2		1	2	1	0.25	300	2^300	6.206542E+81	2.037036E+90	1.113588E+83	5.466708E-08
3	2^3		0	6	2	0.25	400	2^400	1.561289E+110	2.582250E+120	2.991976E+111	1.158670E-09
4	2^4		1	12	3	0.1875	500	2^500	4.196042E+138	3.273391E+150	8.702128E+139	2.658445E-11
5	2^5		2	26	4	0.125	600	2^600	1.125789E+167	4.149516E+180	2.674561E+168	6.445478E-13
6	2^6		0	56	8	0.125	700	2^700	0	5.260135E+210	8.268337E+196	1.571887E-14
7	2^7		3	112	13	0.1015625	800	2^800	0	6.668014e+240	2.731440E+225	4.096331E-16
8	2^8		7	230	19	0.07421875	900	2^900	0	8.452712e+270	9.160496E+253	1.083734E-17
9	2^9		0	474	38	0.07421875	1000	2^1000	0	1.071508E+301	3.109438E+282	2.901926E-19
10	2^10		12	948	64	0.0625	2000	2^2000	0	1.148130e+602	1.039984E+568	9.058070E-35
20	2^20	2652	1018596	27328	2.60620E-02	3000	2^3000	0	1.230231e+903	5.179976E+853	4.210569E-50	
30	2^30		0	1060970550	12771274	1.189418E-2	4000	2^4000	0	1.318204e+1204	3.103534E+1139	2.354366E-65
40	2^40	8.202367E+08	1.092288E+12	6.402835E+9	5.823345E-03	5000	2^5000	0	1.412467e+1505	2.031904E+1425	1.438550E-80	
50	2^50	2.483696E+11	1.121917E+15	3.734259E+12	3.316689E-03	6000	2^6000	5.678168E+1709	1.513470E+1806	1.459296E+1711	9.642052E-96	
60	2^60	0	1.150705E+18	2.216134E+15	1.922191E-03	7000	2^7000	4.795226E+1995	1.621696E+2107	1.074532E+1997	6.625977E-111	
70	2^70	1.331807E+17	1.179216E+21	1.241504E+18	1.051594E-03	8000	2^8000	3.627867E+2281	1.737662E+2408	8.001078E+2282	4.604508E-126	
80	2^80	5.202813E+19	1.208070E+24	8.032099E+20	6.643997E-04	9000	2^9000	2.909188E+2567	1.861919E+2709	6.127126E+2568	3.290758E-141	
90	2^90		0	1.237431E+27	5.085201E+23	4.107792E-04	10000	2^10000	2.339473E+2853	1.995063E+3010	4.776973E+2854	2.394397E-156
100	2^100	3.205325E+25	1.267315E+30	3.025607E+26	2.386783E-04	(*1)記号 ^ は、べき乗を意味する						

(\*1)記号<sup>^</sup>は、べき乗を意味する

注:(A) PVの総数( $2^k$ ) (B) 確定収束PVの個数 (C) 既収束PVの個数 (D) 未収束PVの個数 (E) 未収束PVの比率 D/A

Table 2-4 「1の個数」別の未収束 PV リスト

1の個数	d = 1	d = 2	d = 3	d = 4	d = 5	d = 6		d = 7	d = 8	d = 9
PVの個数	1	2	3	7	12	30		85	173	303
未収束PV	1	11	111	1111	11111	111111	11110011			
		110	1110	11110	111110	1111110	111100110			
			1101	11100	111100	11111100				
				11101	111101	111111000	11101111			
				111010	1111010	1111101	111011100			
				11011	1111001	11111010	11101101			
				110110	111011	111110100	111011010			
					1110110	11111001	11101011			
					1110101	111110010	111010110			
					110111	1111011	1101111			
					1101110	11110110	11011110			
					1101101	111101100	110111100			
						11110101	11011101			
						111101010	110111010			
							11011011			
							110110110			

Table 2-5 「1の個数」別の確定収束 PV リスト

1の個数	d = 1	d = 2	d = 3	d = 4	d = 5	d = 6	d = 7		d = 8	d = 9
収束回数	2	4	5	7	8	10	12		13	15
PVの個数	1	1	2	3	7	12	30		85	173
確定収束PV	10	1100	11100	1111000	11111000	1111110000	110110110100	111100111000		
			11010	1110100	11110100	1111101000	110110111000	111101010100		
				1101100	11110010	1111100100	110111010100	111101011000		
					11101100	1111011000	110111011000	111101100100		
					11101010	1111010100	110111100100	111101101000		
					11011100	1111001100	110111101000	111101110000		
					11011010	1101101100	110111110000	111100101000		
						1101110100	111010110100	111100111000		
							111010111000	1111010100100		
							11101010100	1111010101000		
							1110110100	111101011000		
							1110111000	1111011011000		
							11101111000	111101110000		
							111011101000	1111011100000		
							111011110000	1111011110000		
							111100110100	1111110011000		
							1111011110000	1111110110000		
							1111001101000	11111100110000		

Table 2-6 「1の個数」別の確定収束 PV と未収束 PV の個数集計表

(A)	(B)	(C)	(D)
1	2	1	1
2	4	1	2
3	5	2	3
4	7	3	7
5	8	7	12
6	10	12	30
7	12	30	85
8	13	85	173
9	15	173	476
10	16	476	961
20	32	5936673	13472296
30	48	84141805077	248369601964
40	64	2029460152095008	6113392816333320
50	80	52028134169251235063	160509643506854706934
60	96	1325438036712274130536314	4327322846731848749589802
70	111	39402905856990930693224661645	90297035113874205499700937260
80	127	1176811162775483601693782177033888	2743802136233200494910736532266785
90	143	34088001847162371052513765703648936115	8258315524443386410001965296565270848
100	159	752276648034035903600966817196471179765521	2309006583627815515505755316801664143732646

注: (A) 1の個数 (B) 収束回数 (C) 確定収束PVの個数 (D) 未収束PVの個数

(A)	(B)	(C)	(D)
200	317	6.568066E+86	1.529521E+87
300	476	6.501316E+131	2.014549E+132
400	634	1.041206E+177	2.435531E+177
500	793	1.356044E+222	4.209951E+222
600	951	2.538654E+267	5.947521E+267
700	1110	3.670484E+312	1.140475E+313
800	1268	7.396696E+357	1.734178E+358
900	1427	1.127316E+403	3.504613E+403
1000	1585	2.365970E+448	5.550533E+448
2000	3170	1.506626E+901	3.539938E+901
3000	4755	1.429200E+1354	3.393522E+1354
4000	6340	1.675502E+1807	3.980332E+1807
5000	7925	2.140600E+2260	5.096390E+2260
6000	9510	2.942851E+2713	7.008399E+2713
7000	11095	3.876301E+3166	9.522458E+3166
8000	12680	5.738736E+3619	1.410026E+3620
9000	14265	8.512281E+4072	2.099039E+4073
10000	15850	1.315414E+4526	3.244099E+4526



Figure 1 PV (Parity Vector) の軌跡の図的表現 (PV 俯瞰図)

#### 入力PVに関する詳細情報

入力PV=1111011100010				
比率 (Glide/PVの長さ)	PVの初めからの長さ	1の個数	Generator	Glide (収束回数)
-	1	1	-	
2.00	2	2	3	4
2.33	3	3	7	7
1.75	4	4	15	7
1.40	5	4	15	7
9.00	6	5	47	54
4.43	7	6	111	31
2.50	8	7	239	20
3.00	9	7	495	27
2.10	10	7	1007	21
1.09	11	7	2031	12
1.08	12	8	4079	13
<b>1.00</b>	<b>13</b>	<b>8</b>	<b>4079</b>	<b>13(確定収束)</b>

#### 表の説明

入力PVの先頭から長さが2から13の部分PVのジェネレータ(Generator)は、ディオファントス方程式を定式化することで計算できるが、ここでは計算の簡略化のため、補題7の逐次計算により計算した。収束回数(グライド: Glide)は、ジェネレータから計算した。比率のGlide/(PVの長さ)の意味については本文を参照されたい。

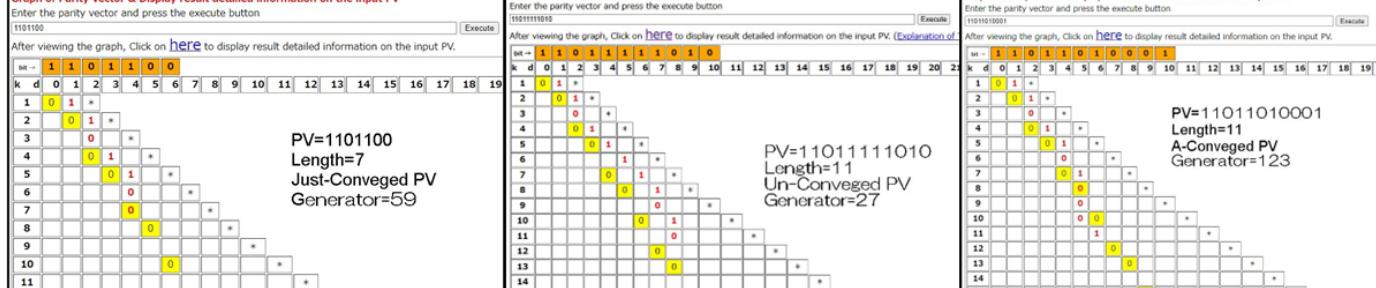


Figure 3 確定収束 PV、未収束 PV、および既収束 PV の軌跡の事例

### 整数入力によるParity Vector(PV)の俯瞰図

正の整数(>1)を入力し実行ボタンをクリックしてください。



Figure 4 正の整数 N の PV(パリティベクトル) の図的表現

Table 3-1 剰余類  $N_r = \{2^5m + r\}$  (r=7, 15, 27, 31) 要素の ST 収束度率

PV 長さ	整数の 総数	N <sub>7</sub> = {2 <sup>5</sup> m+7}				N <sub>15</sub> = {2 <sup>5</sup> m+15}				N <sub>27</sub> = {2 <sup>5</sup> m+27}				N <sub>31</sub> = {2 <sup>5</sup> m+31}			
		ST 収束度率(最大値)		TST 収束度率(最大値)		ST 収束度率(最大値)		TST 収束度率(最大値)		ST 収束度率(最大値)		TST 収束度率(最大値)		ST 収束度率(最大値)		TST 収束度率(最大値)	
		比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ	比率	ジェネレータ
3	1	2.33	7	3.67	7	1.75	15	3.00	15	11.80	27	14.00	27	11.20	31	13	31
4	1					1.75											
5	2									11.80	27	14.00	27	11.20	31	13	31
6	4	1.33	39	3.83	39	9.00	47	11.00	47	1.17	59	3.67	59	9.00	63	11	63
7	8	7.29	71	9.29	71	4.43	111	6.43	111	6.43	91	8.43	91	2.14	127	10	95
8	16	3.63	167	10.13	231	2.50	239	7.13	207	5.00	155	6.88	155	3.88	223	6	223
9	32	2.33	327	10.11	327	3.00	495	9.11	463	2.67	283	9.44	411	4.44	447	9	415
10	64	3.50	871	11.30	871	2.10	751	9.40	879	2.70	795	9.70	763	8.10	703	11	703
11	128	3.91	1639	10.09	1895	7.09	1583	10.36	1743	5.55	1819	10.18	1307	7.36	1407	10	1695
12	256	4.00	3399	11.42	2919	4.17	2287	10.92	3695	3.50	3323	9.17	2843	6.67	2111	13	3711
13	512	5.62	7527	9.77	6375	5.92	7279	10.62	5839	5.54	7963	12.69	6171	5.38	4255	12	6943
14	1024	7.50	10087	12.21	14695	5.36	12399	11.86	12399	5.57	15131	10.07	15131	5.93	15039	12	15039
15	2048	4.87	18599	11.67	26471	4.87	17647	11.73	17647	4.67	24091	11.33	22043	5.40	22559	13	26623
16	4096	8.44	35655	12.75	35655	7.94	60975	13.38	52527	7.69	57115	12.00	57115	7.88	37503	13	56095
17	8192	6.47	113383	13.00	77031	6.65	126575	12.35	87087	6.12	116507	12.94	115547	7.29	75007	13	106239
18	16384	5.39	191335	15.44	230631	6.44	192751	13.50	216367	5.83	226587	13.11	206847	6.89	206847	13	156159
19	32768	8.68	362343	14.42	389191	7.21	434223	14.68	461263	7.84	432923	14.84	410011	9.11	381727	14	423679
20	65536	9.15	1027431	16.45	837799	8.75	667375	15.80	667375	8.80	626331	15.95	626331	8.50	1042431	15	1003263
21	131072	8.76	1345383	15.10	1345383	8.71	2054863	15.33	1590511	8.62	1541147	15.62	1256699	10.67	1126015	17	1723519
22	262144	8.23	3964775	16.64	3542887	9.68	4053039	15.27	4053039	7.59	4112379	15.68	2725659	10.18	2252031	16	3428767
23	524288	8.83	6079559	16.57	6355687	8.35	6688623	16.78	7332399	9.65	6631675	16.70	5649499	10.70	8088063	18	6649279
24	1048576	11.96	13421671	17.58	15761255	8.46	10147375	17.63	10507503	10.38	14378779	16.71	12499963	10.21	12132095	18	8400511
25	2097152	10.72	27209575	17.04	2802007	11.48	26843343	17.68	31466383	11.44	20132507	16.84	23641883	11.92	26716671	17	2063835
26	4194304	10.31	33973607	17.88	55187303	9.58	62913839	17.92	36791535	11.85	56924955	17.88	56924955	14.46	63728127	23	63728127
27	8388608	10.48	122159271	17.85	126357223	12.74	96883183	18.78	96883183	9.41	85437723	17.96	112317531	13.63	95592191	22	127456255
28	16777216	12.25	145324775	19.96	235465895	14.11	217740015	20.00	156977263	12.07	217987163	18.89	254877787	12.96	181930687	21	191184383
29	33554432	12.14	326610023	19.03	447017287	12.41	409344047	20.24	483935471	11.48	36785339	19.24	353198843	12.52	363861375	20	286776575
30	67108864	11.27	568097511	20.23	954843751	11.47	1013856495	18.43	894034575	11.60	661398811	18.33	1025330203	11.90	656055295	21	670617279
31	134217728	12.81	1801487687	20.32	1674652263	12.84	1200991791	19.97	1788312751	11.61	2115185915	19.71	1697499995	13.97	1827397567	20	1341234559
32	268435456	10.91	4015548263	19.72	3349304551	13.28	4111644527	20.41	2937088111	13.97	2788008987	20.5	2610744987	13.88	3136510111	19	3576625503
33	536870912	1															

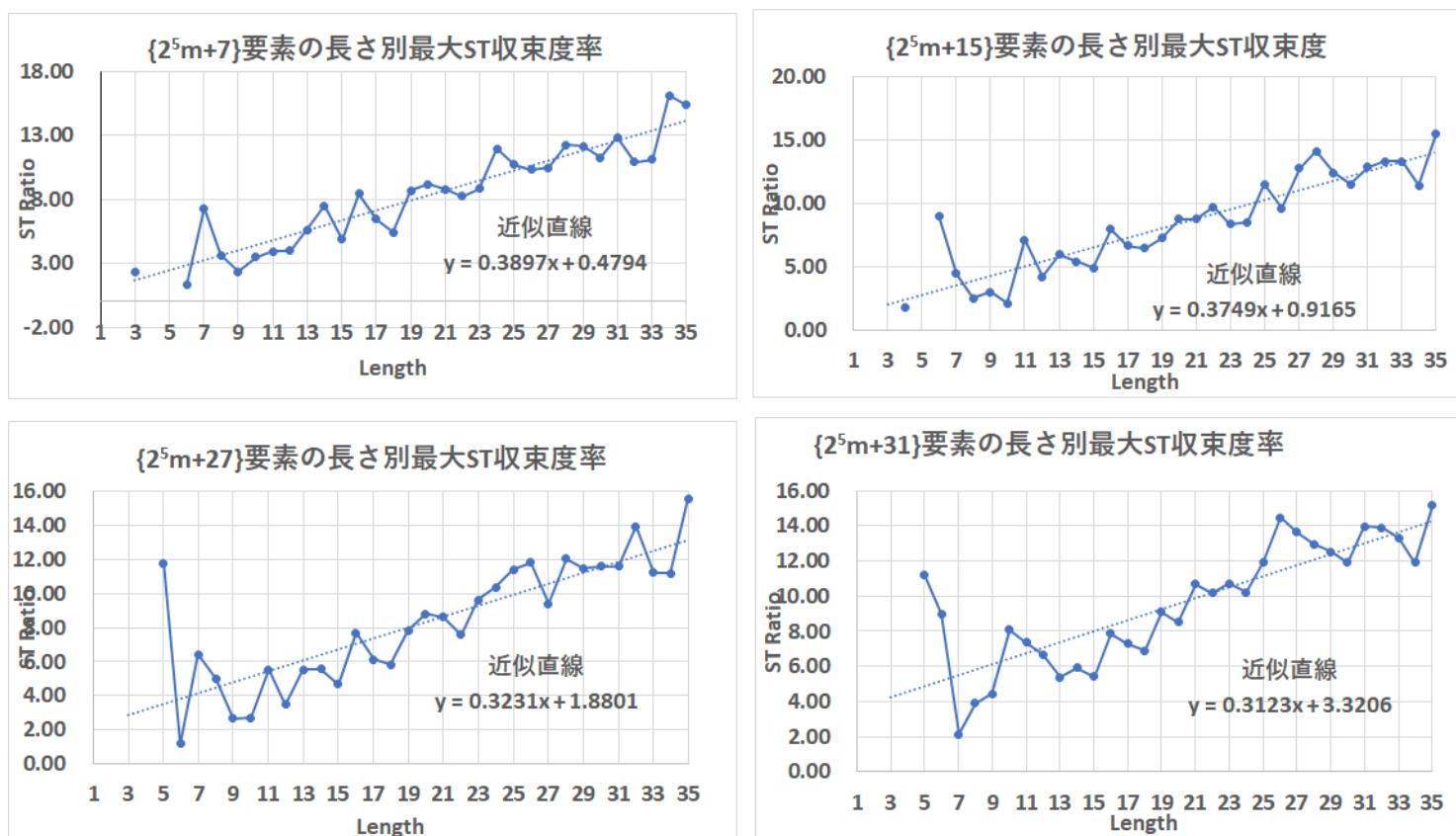


Figure 5 剰余類  $N_r = \{2^5m + r\}$  ( $r=7, 15, 27, 31$ ) 要素の ST 収束度率グラフ

Table 3-2 グライドレコード (Glide Record) と K-Max-G(N) の ST 収束度率

区間 $2^k -$	ジェネレータ 正整数 N	PVの長さ (LPV)	Glide Records Glide (*1)	K-Max-G(N) Glide (*2)	収束度率 Glide/LPV	区間 $2^k -$	ジェネレータ 正整数 N	PVの長さ (LPV)	Glide Records Glide (*1)	K-Max-G(N) Glide (*2)	収束度率 Glide/LPV
$2^{61}$	2602714556700227743	62	1005	1005	16.21	$2^{23}$	13421671	24	287	287	11.96
$2^{60}$	1236472189813512351	61	990	990	16.23	$2^{22}$	8088063	23	246	246	10.70
$2^{57}$	180352746940718527	58	966	966	16.66	$2^{21}$	2252031	22	224	224	10.18
$2^{56}$	118303688851791519	57	902	902	15.82	$2^{20}$	1126015	21	224	224	10.67
$2^{49}$	1008932249296231	50	886	886	17.72	$2^{19}$	1027431	20	183	183	9.15
	739448869367967	50	728		14.56	$2^{18}$	381727	19	173	173	9.11
$2^{46}$	70665924117439	47	722	722	15.36	$2^{17}$	206847	18		124	6.89
$2^{44}$	31835572457967	45	712	712	15.82	$2^{16}$	75007	17		124	7.29
$2^{43}$	13179928405231	44	688	688	15.64	$2^{15}$	35655	16	135	135	8.44
$2^{40}$	2081751768559	41	606	606	14.78	$2^{14}$	22559	15		81	5.40
$2^{39}$	898696369947	40	550		13.75	$2^{13}$	10087	14	105	105	7.50
$2^{38}$	3779454939983	39			13.18	$2^{12}$	7279	13		77	5.92
$2^{37}$	149311800091	38			13.68	$2^{11}$	2111	12		80	6.67
$2^{36}$	83987887551	37			14.46	$2^{10}$	1407	11		81	7.36
$2^{35}$	34980046495	36			12.86	$2^9$	703	10	81	81	8.10
$2^{34}$	21751218587	35			15.60	$2^8$	447	9		40	4.44
$2^{33}$	14500812391	34	547		16.09	$2^7$	155	8		40	5.00
$2^{32}$	6273020223	33			13.33	$2^6$	71	7		51	7.29
$2^{31}$	2788008987	32	447		13.97	$2^5$	47	6		54	9.00
$2^{30}$	1827397567	31	433		13.97	$2^4$	27	5	59	59	11.80
	1200991791	31	398		12.84	$2^3$	15	4		7	1.75
$2^{29}$	656055295	30			11.90	$2^2$	7	3	7	7	2.33
$2^{28}$	363861375	29			12.52	$2^1$	3	2	4	4	2.00
$2^{27}$	217740015	28	395		14.11						
$2^{26}$	95592191	27			13.63						
$2^{25}$	63728127	26	376		14.46						
	56924955	26	308		11.84						
$2^{24}$	26716671	25	298		11.92						
	20638335	25	292		11.68						

(\*1) Editted by Eric Roosendaal in [ 2 ]: "3x+1 Glide Records"  
<http://www.ericrocr.nl/wondrous/gliderecs.html>

(\*2) 区間  $[2^k, 2^{k+1}-1]$  における K-Max-G(N) の値が空白の部分は、欠測値である

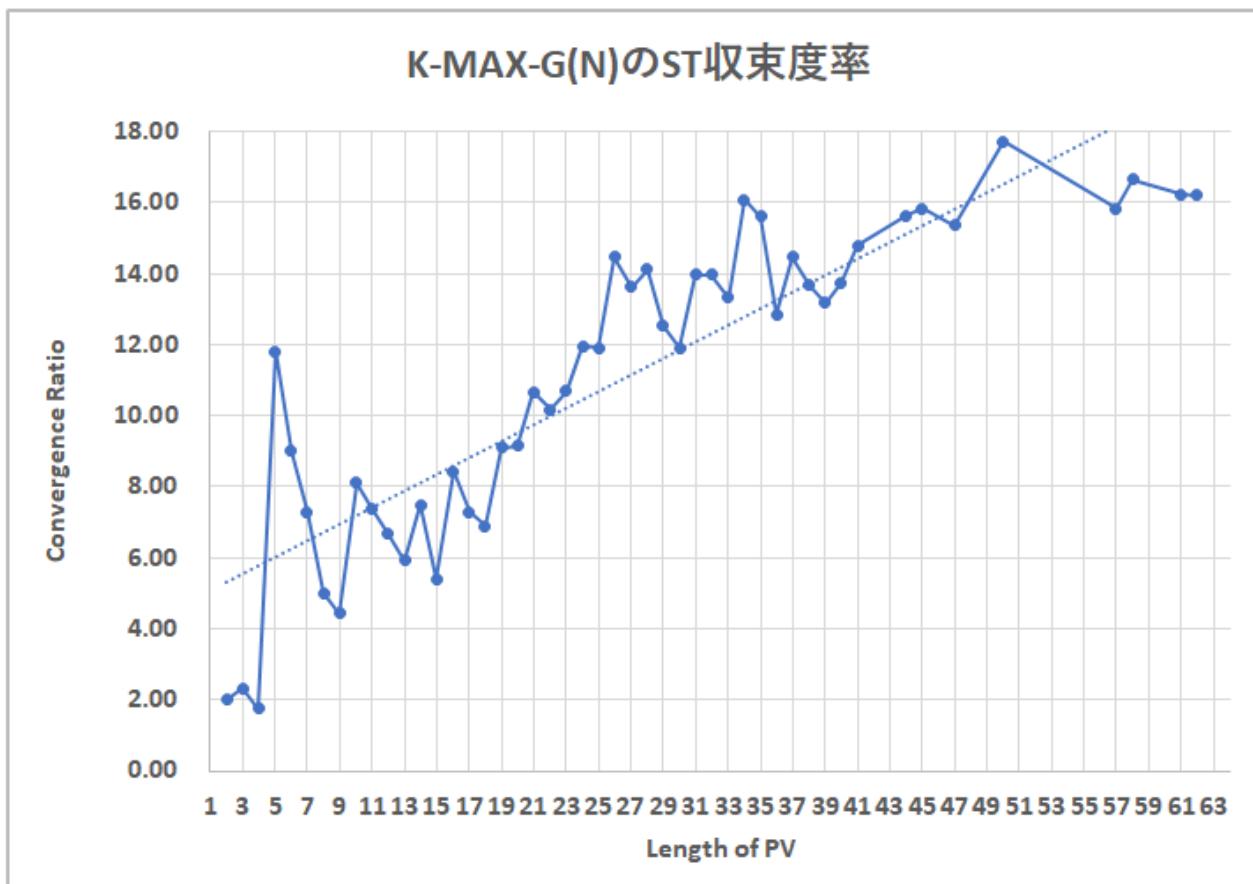


Figure 6 K-Max-G(N) の ST 収束度率グラフ

Table 3-3 「1の個数」別の確定収束 PV と未収束 PV の関係

確定収束PVの特性データ			1の個数	未収束PV							
				長さ	1	2	3	4	5	6	7
バリティベクトル (PV)	収束回数	ジェネレータ	PVの個数 ↓	1	1	2	3	4	5	6	7
10	2	(1)	1	1	1(1)						
1100	4	(3)	2	2		11(3)	110(3)				
11010	5	(11)	3	1				1101(11)			
11100	5	(23)	3	2			111(7)	1110(7)			
1101100	7	(59)	4	2					11011(27)	110110(59)	
1110100	7	(7)	4	2					11101(7)	111010(7)	
1111000	7	(15)	4	3				1111(15)	11110(15)	111100(15)	
110111010	8	(123)	5	1							11011101(123)
11011100	8	(219)	5	2						110111(27)	1101110(91)
11101010	8	(199)	5	1							1110101(71)
11101100	8	(39)	5	2						111011(39)	1110110(39)
11110010	8	(79)	5	1							1111001(79)
11110100	8	(175)	5	2						111101(47)	1111010(47)
11111000	8	(95)	5	3					11111(31)	111110(31)	1111100(95)

(注) 括弧内の整数はPVのジェネレータである

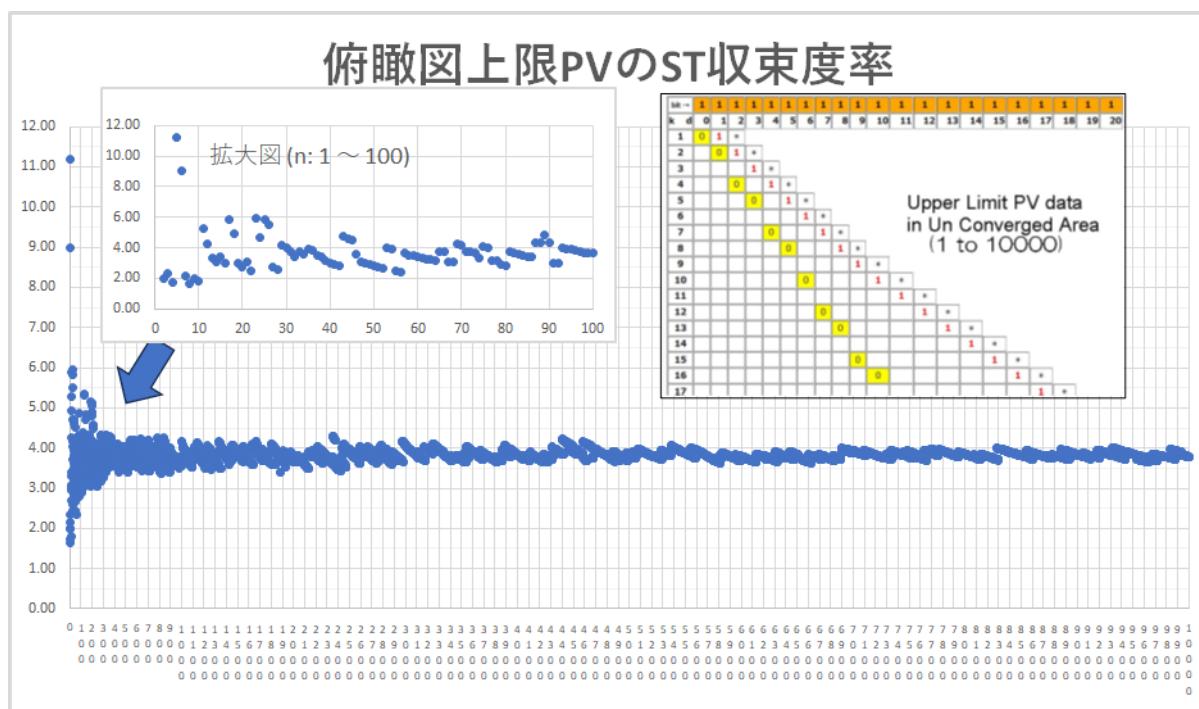


Figure 7 俯瞰図上限 PV のジェネレータ= $2^n - 1$ (n: 1~10000) の ST 収束度率グラフ

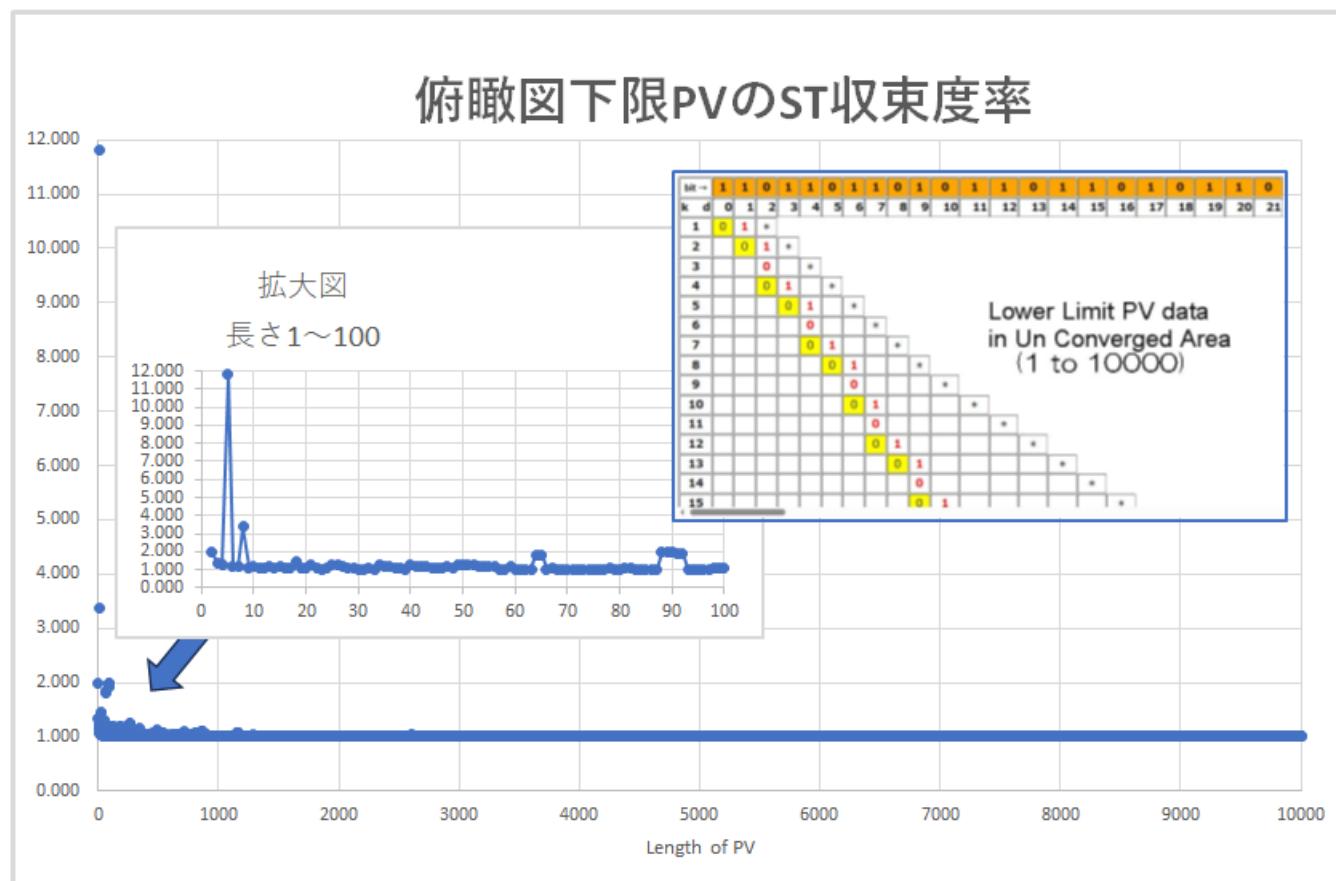


Figure 8 俯瞰図下限 PV の (1~10000) の ST 収束度率グラフ

---

## APPENDIX 2

(コンピュータプログラムとデータ)

---

下記のコンピュータプログラムは論文中にリンクが貼られているデモンストレーションプログラムのソーステキストである。  
使用したいプログラムをダウンロードし、コンピュータ環境に合わせて変更できます。

表1 プログラムリスト

	PHP <sup>(*1)</sup> 言語	Python <sup>(*2)</sup> 言語
Program 1	program1.html program1.php	program1py.html program1.py
Program 2	program2.php	program2.py
Program 3	program3.php	program3.py
Program 4	program4.html Program4.php	program4py.html program4.py
Program 5	program5.html Program5.php	program5py.html program5.py
Program 6	program6.html Program6.php	program6py.html program6.py
<b>ViewOfBird.html</b>	ViewOfBird.html is Program 2 と Program 3 で利用される	

(\*1) PHP はオープンソースのサーバ側で動作するコンパイル不要のプログラム言語である。

(\*2) Python はサーバ側で動作するコンパイル不要のプログラム言語であり、 Python Software Foundation の商標である。

下記のデータは、論文中でリンクが貼られているテキストデータである。

表2 PV の個数計算の結果リスト

	少数データ	普通サイズのデータ	多数のデータ
長さによる集計結果	1 ~ 100	1 ~ 1000	9000 ~ 10000
1 の個数による集計結果	1 ~ 100	1 ~ 1000	9000 ~ 10000

表1のデモンストレーションプログラムは、以下のコンピュータ環境で開発され運用されている。

表3 コンピュータ環境(要約)

(1)	コンピュータ	Windows パーソナルコンピュータ
(2)	OS	Windows 10 <sup>(*1)</sup>
(3)	サーバシステム	Xampp v3.3.0 <sup>(*2)</sup> for Windows
(4)	言語	PHP 8 and Python 3
(5)	高精度整数計算 calculations	GMP function (PHP) mpmath (Python)

(\*1) Windows は米国 Microsoft Corporation の商標である。

(\*2) XAMPP は Apache Friends によって開発された無償のオープンソースの Web サーバプラットフォームである。

### [謝辞]

Appendix 1 の図表および Appendix 2 のプログラムとデータを掲載していただいた GitHub に感謝します。

GitHub は、米国 GitHub, Inc. が運営するソフトウェア開発プラットフォームである。